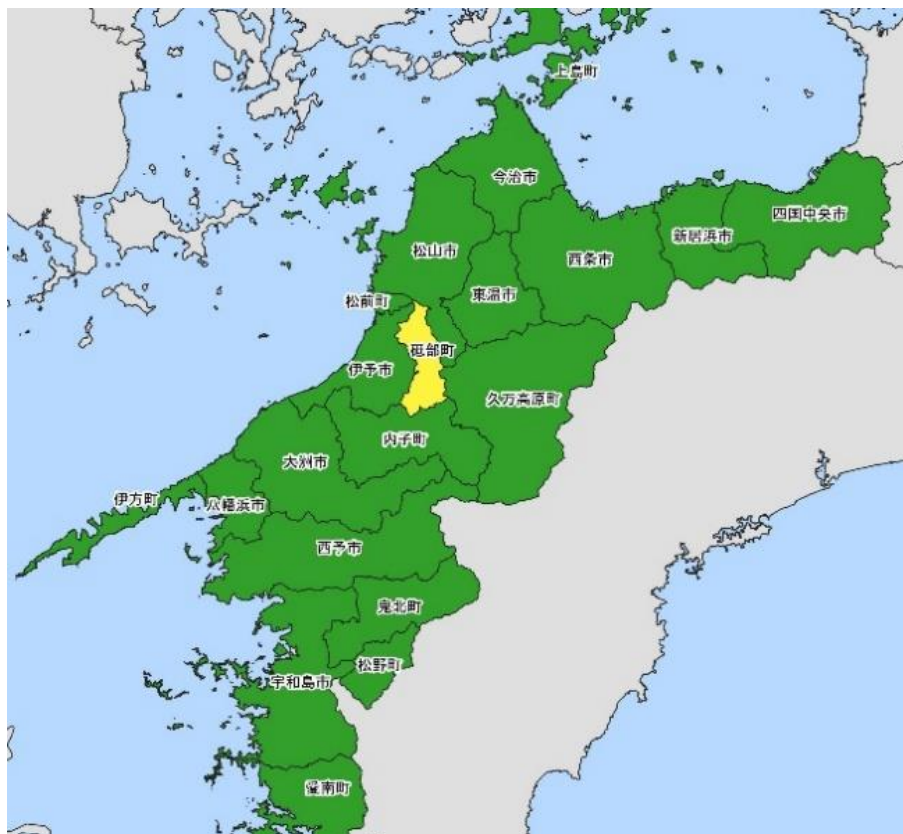


砥部町の移動環境の 問題点・課題について

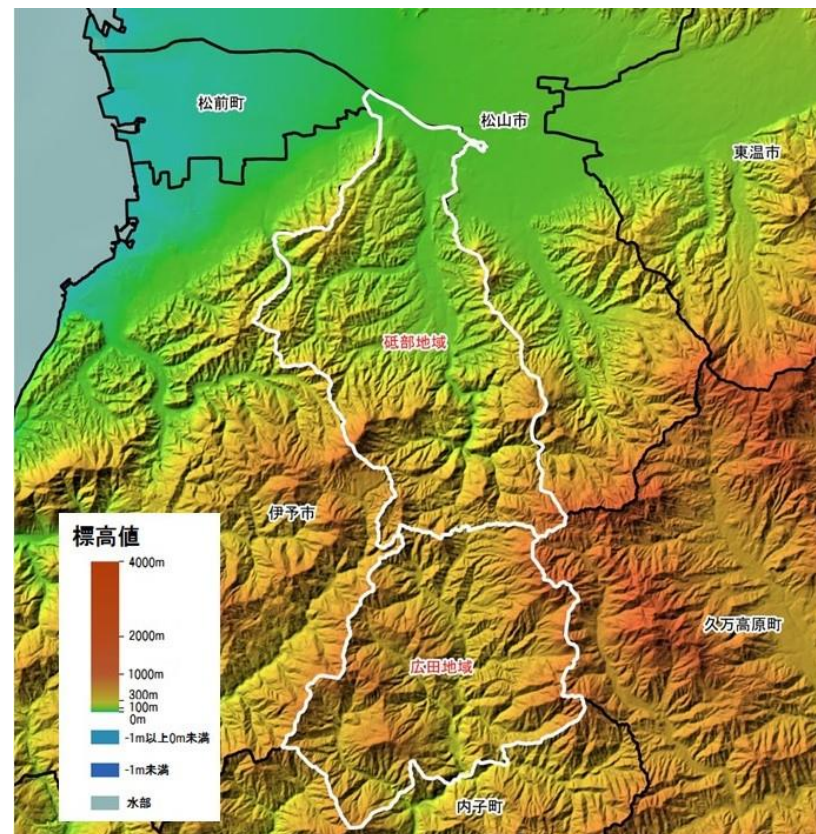
地域の現状

- ・ 愛媛県のほぼ中央に位置し、松山市、松前町、伊予市、内子町、久万高原町などと隣接している。
- ・ 北部には平地もみられるが、南部に行くにつれて標高が高くなり、山間地域となる。

位置図

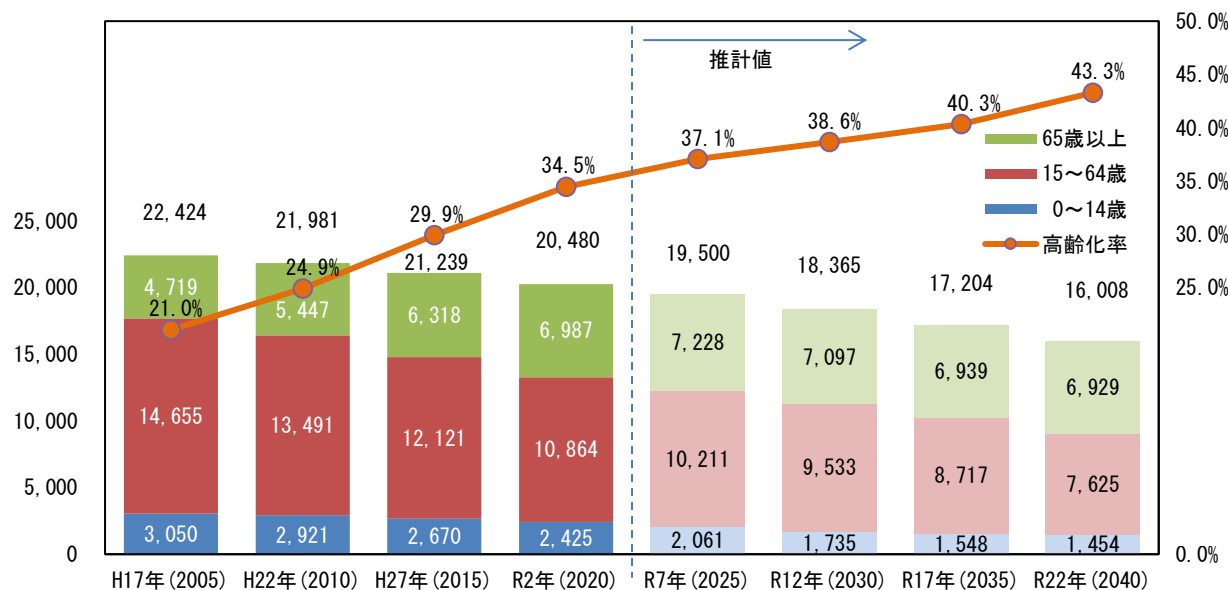


標高図



- 令和2（2020）年時点で人口20,480人、高齢化率34.5%であり、令和22（2040）年には人口16,000人程度にまで減少する見込みである。
- 松山市のベッドタウンとなっており、砥部地域北部では人口の集積がみられる一方、砥部地域南部や広田地域では人口が分散している。

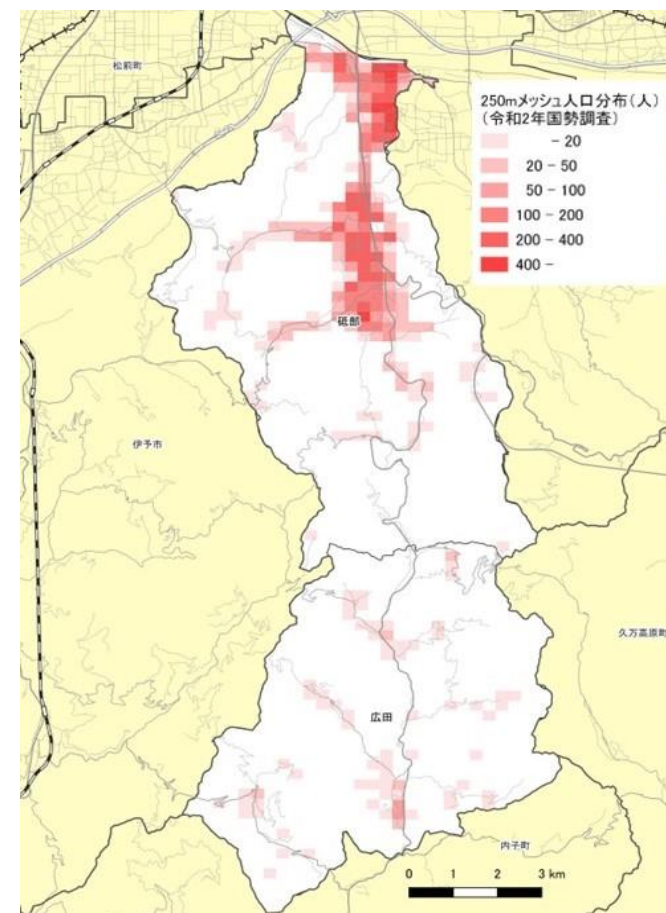
人口・高齢化率推移



注)総数には「年齢不詳」を含むため、内訳を合計しても総数に一致しない。

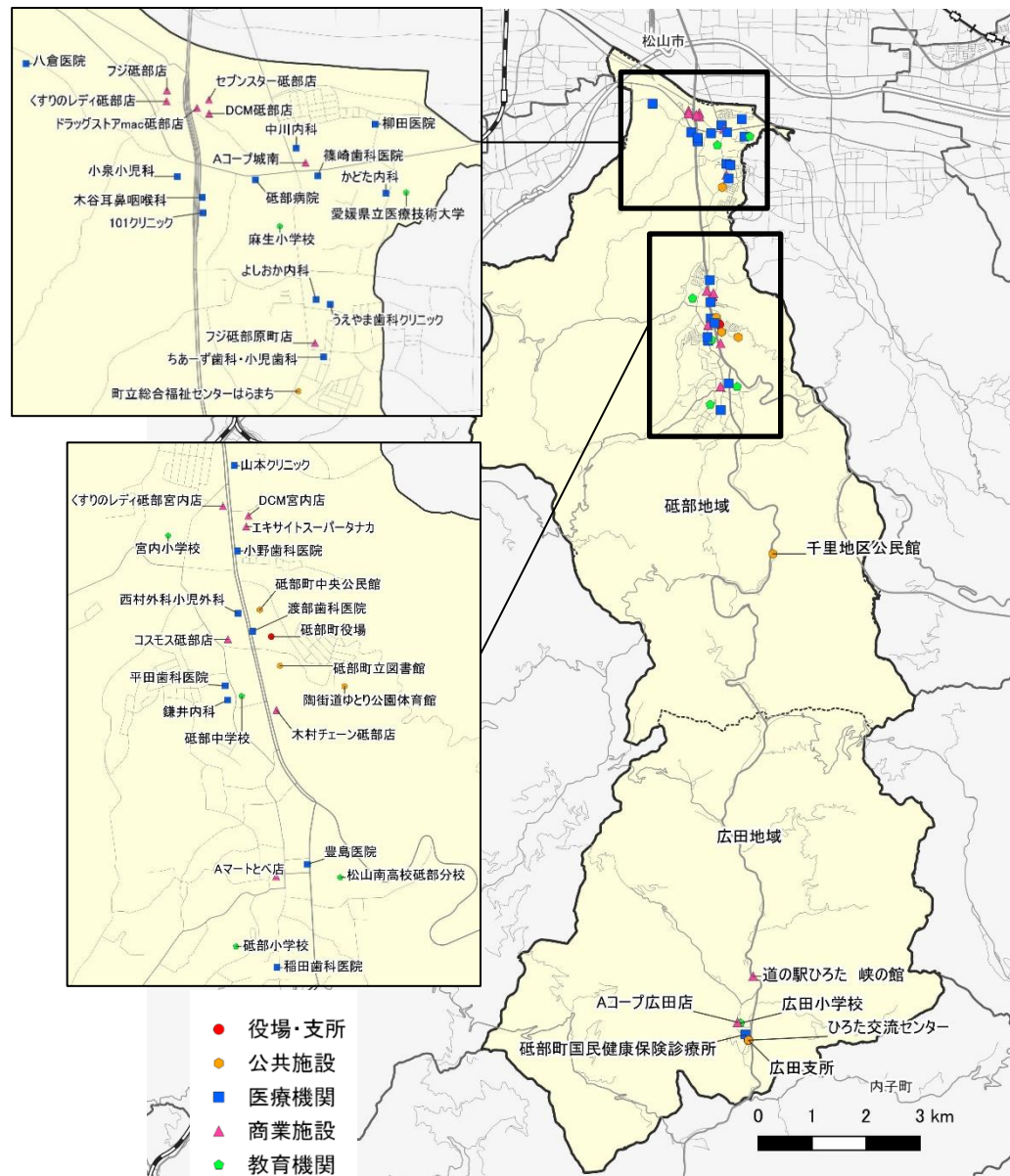
資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口（令和5年12月）

人口分布図



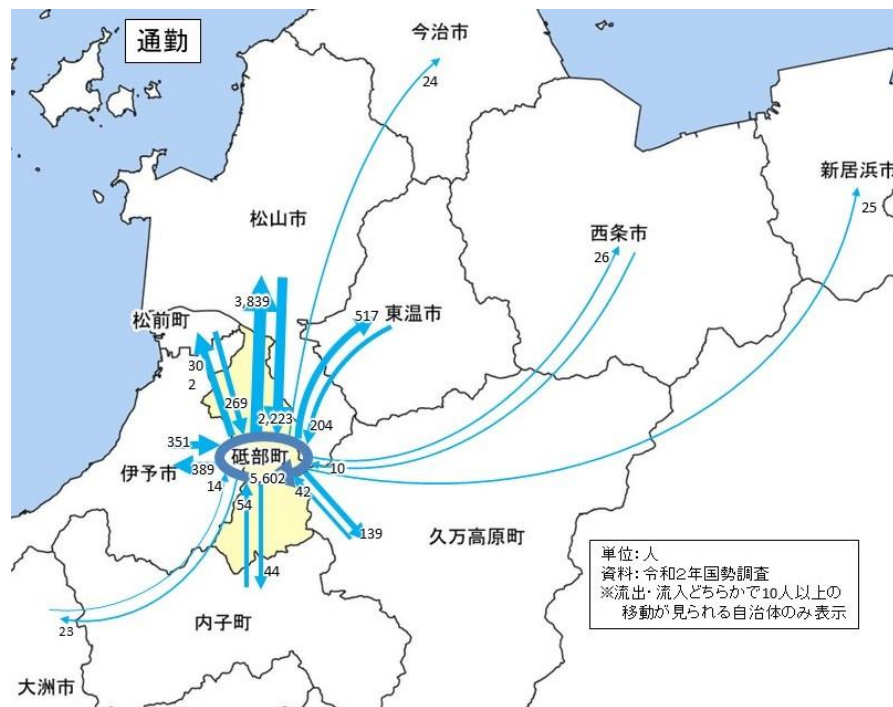
- 主な商業施設や医療機関は砥部地域北部、特に国道33号沿線に集中している。
- 砥部地域中部より南側では国道33号沿線への施設の集中が顕著である。
- 広田地域においては広田支所の周辺に施設が集中している。

施設立地地図



- 砥部町内に在住する従業者・通学者12,347人のうち、5,870人（47.5%）が町内へ通勤・通学し、6,157人（49.9%）が町外へ通勤・通学している。
- 通勤では町内に在住・通勤する人が最も多く、次いで松山市との間で流出入が盛んである。
- 通学においては、松山市への流出が多くなっている。

通勤流動図

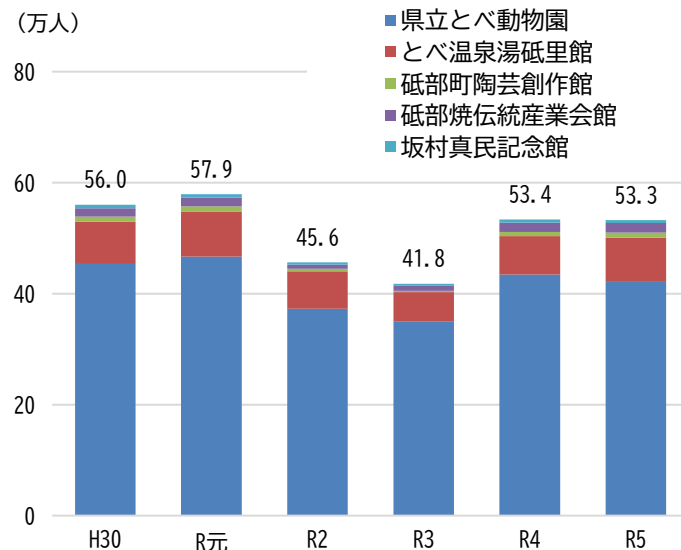


通学流動図



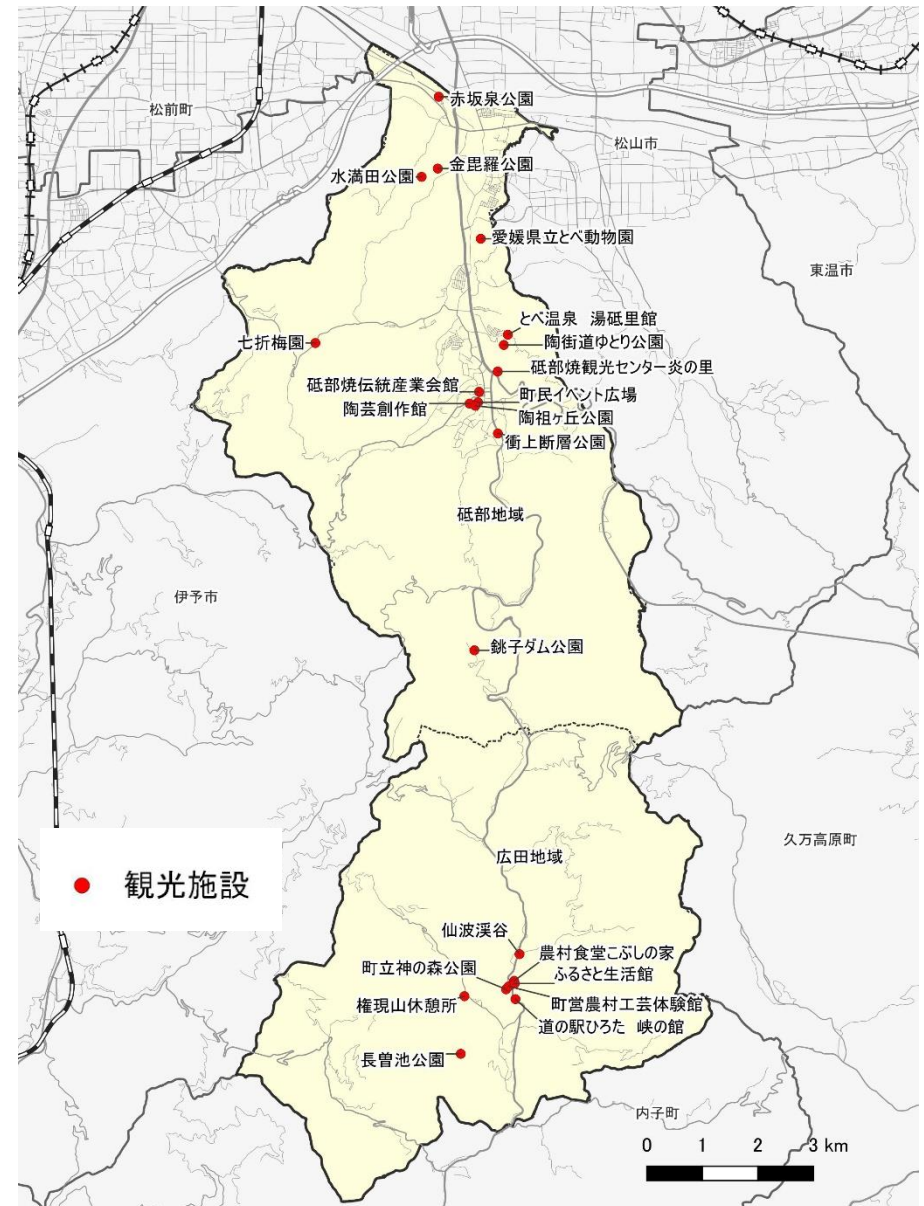
- 新型コロナが5類移行後、観光客数は回復傾向にあり、コロナ前の水準に近づいている。
- 県立とべ動物園や窯元等砥部焼関連施設が町内の主要な観光地である。
- 令和5年度における主要観光施設の入込客数は年間約53.3万人で、最も入込客数が多かったのは愛媛県立とべ動物園で年間約40万人である。

町内主要観光施設の入込客数推移



資料：愛媛県「観光客とその消費額」

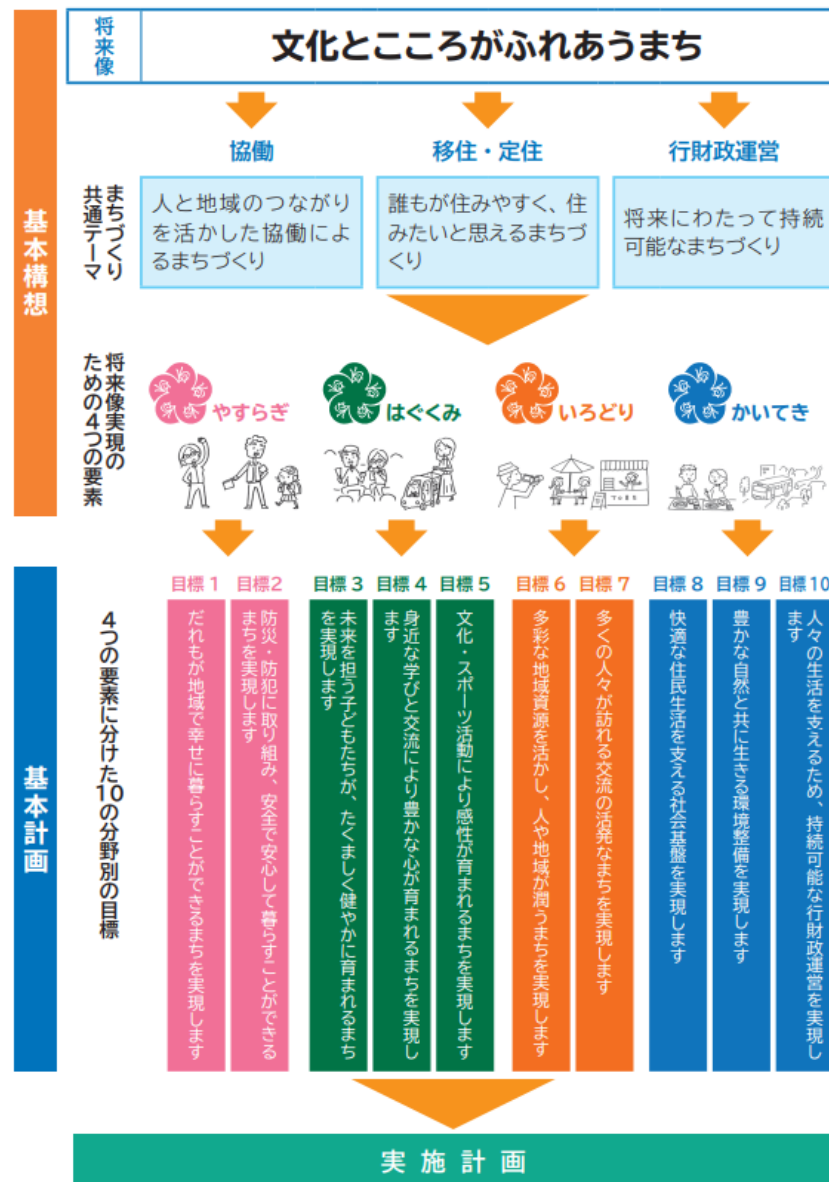
観光施設立地図



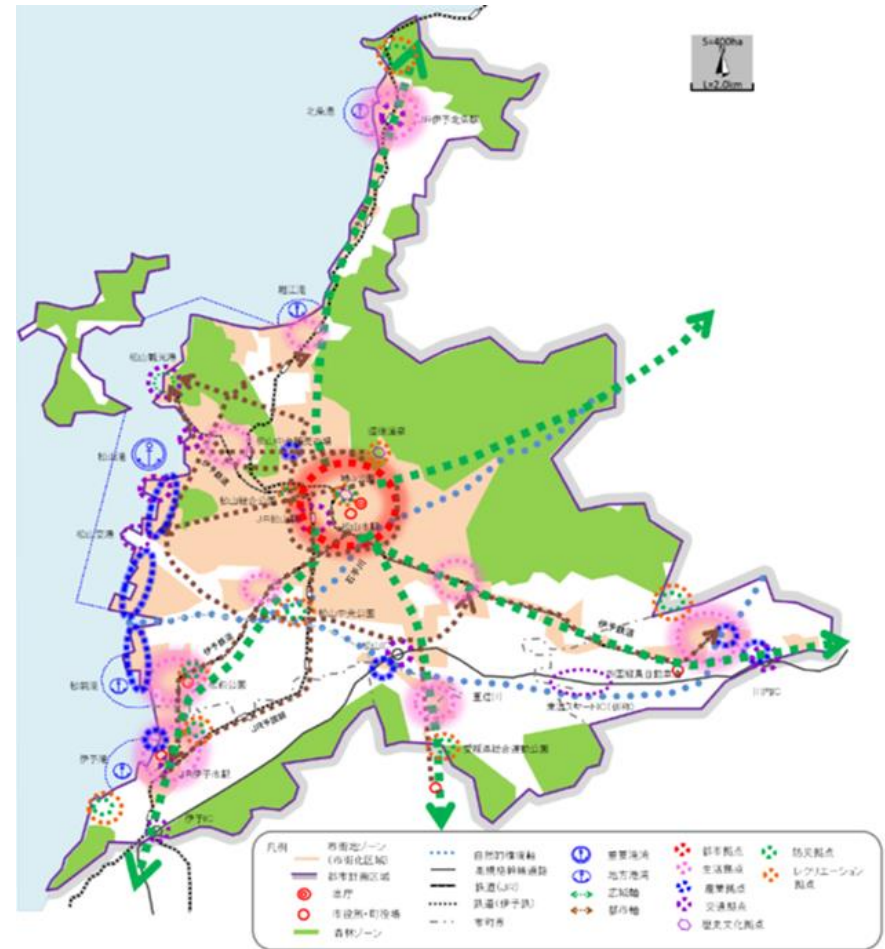
まちづくりの方向性

- 本町の最上位計画に位置付けられている砥部町総合計画では、『文化とところがふれあうまち』を将来像とし、10個の基本目標を掲げている。
- 公共交通については目標8「快適な住民生活を支える社会基盤を実現します」の、施策2「交流と活動を支える交通環境の充実を推進します」の施策②「公共交通の充実」において以下のように方針が示されている。

- 利用しやすい生活路線の確保や、交通が不便な地域などにおける交通手段の確保など、住民の利便性の向上を目指します。
- 公共交通の利便性向上と路線の維持存続について、事業者への協力を求めます。
- 高齢者などの交通弱者が安全で安心して移動できる交通環境整備として、住民ニーズを踏まえた、使いやすく持続性の高い公共交通の実現に努めます。

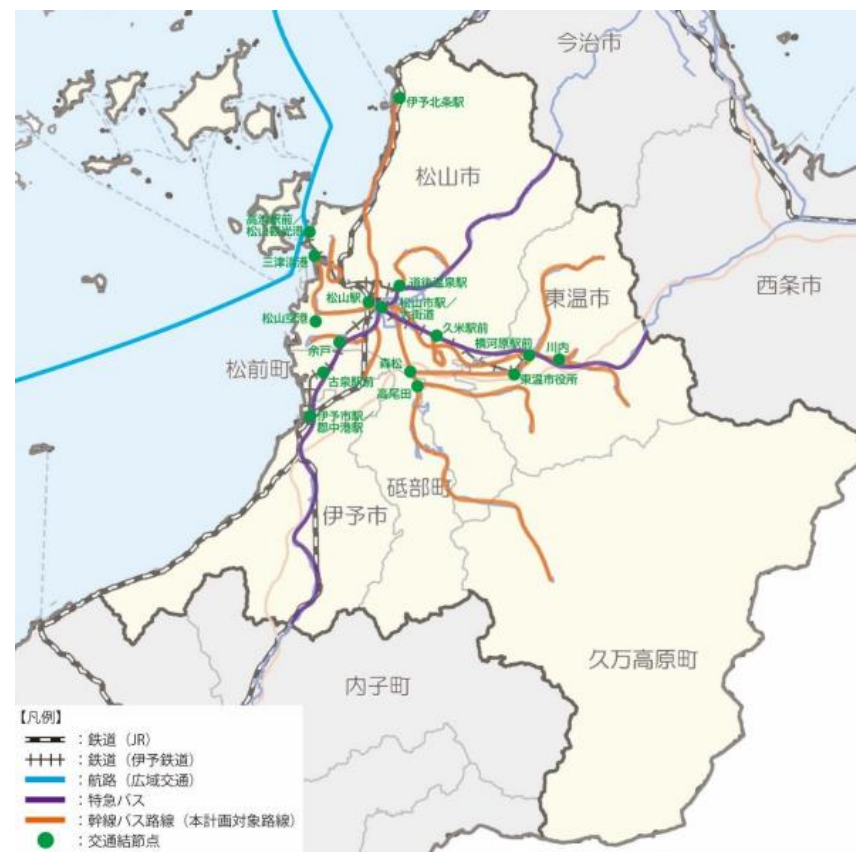


- ・「未来を共創する高次都市機能を備えた連携中枢都市圏の形成」をキャッチフレーズとし、5つのまちづくりの方針を設定してまちづくりを進めることとしている。
- ・公共交通に関連しては、「地域公共交通網形成計画や公共施設等総合管理計画等の施策と連携を図りながら、コンパクト・プラス・ネットワークによる集約型のまちづくりを推進する」、「中国・四国地域の中核として、区域内外の交流・連携・発展と中枢機能を支える効率的で円滑な総合交通体系を実現する。また、公共交通機関や自転車の利用促進を図り、CO2の排出抑制による環境負荷の小さな低炭素なまちづくりを目指す」としている。



- ・愛媛県地域公共交通計画では、基本方針を『多様な関係者の「共創」による、使いやすく持続可能な公共交通ネットワークの確保』とし、5つの計画目標を定めている。
- ・本町に関連する施策としては乗継環境の改善やDX,GX、担い手確保などについての施策が定められている。

基本方針	計画目標	実施事業(●:地域公共交通特定事業)
多様な関係者の「共創」による、 使いやすく持続可能な公共交通ネットワークの確保	① 既存公共交通網の再編・最適化 利用者目線でのニーズ対応、交通事業者目線での運行効率化、自治体目線での負担適正化の3つの視点を踏まえ、ルートやダイヤの見直し、モードの転換等を含めた最適化を図る。	地域間交通・地域内交通が担う役割の設定 拠点間の接続強化 生活移動と広域移動を両立する運行ダイヤの設定 バス路線(幹線・支線)の分割、再編 ● JR予土線・予讃線海まわり線の利用促進・利便増進
	② 公共交通を使いたくなる環境整備 限られた交通資源を快適に利用できるよう、交通モード間の乗り継ぎ利便性の向上や、通信環境・待合環境等の改善を通して、公共交通を積極的に利用したいと思える環境整備を図る。	既存の交通結節点の利便性向上 乗り場環境の改善による快適性向上【新】 低床・環境対応車両の導入推進 ● 多様な交通手段の導入によるラストワンマイルの補完【新】 自転車利用者に対する利用促進(サイクルトレイン)
	③ サービスや運営の高度化 キャッシュレス決済やMaaS、GTFSによる情報発信、DX・GX技術の活用、サブスクリプション化の検討・導入など、新たな技術やサービスの活用により、公共交通サービスの高度化や運営効率化を図る。	バス情報のデジタル化の推進【新】 キャッシュレス決済の導入【新】 ● MaaS等の新たなモビリティサービスの推進【新】 公共交通利用の定額制導入に向けた可能性検討【新】 貨客混載による公共交通の利活用
	④ 運転手等の確保・魅力向上 地域の生活の足を維持するための担い手となる公共交通の運転手等の確保について、交通事業者だけでなく、国、県、周辺自治体をはじめとした関係機関が一丸となって求人情報の発信や職の魅力向上に取り組む。	運転手等の人材確保に向けた広報・啓発 運転手等の育成に向けた支援【新】 運転手等の魅力向上に向けた検討【新】
	⑤ 公共交通に対する愛着形成 公共交通を知り、より身近に感じてもらうため、商業施設とのタイアップや地図アプリでの路線検索、観光ツアーの発信など他分野との連携を強化し、住民のみならず来県者に対しても、公共交通の魅力発信や認知度向上に向けた情報発信を行う。	公共交通利用による観光モデルルートの設定 観光目的でのバス運行の充実 県民に対する公共交通を利用した外出の促進(モビリティ・マネジメント) 地域と連携した公共交通利用促進の実施【新】 ●

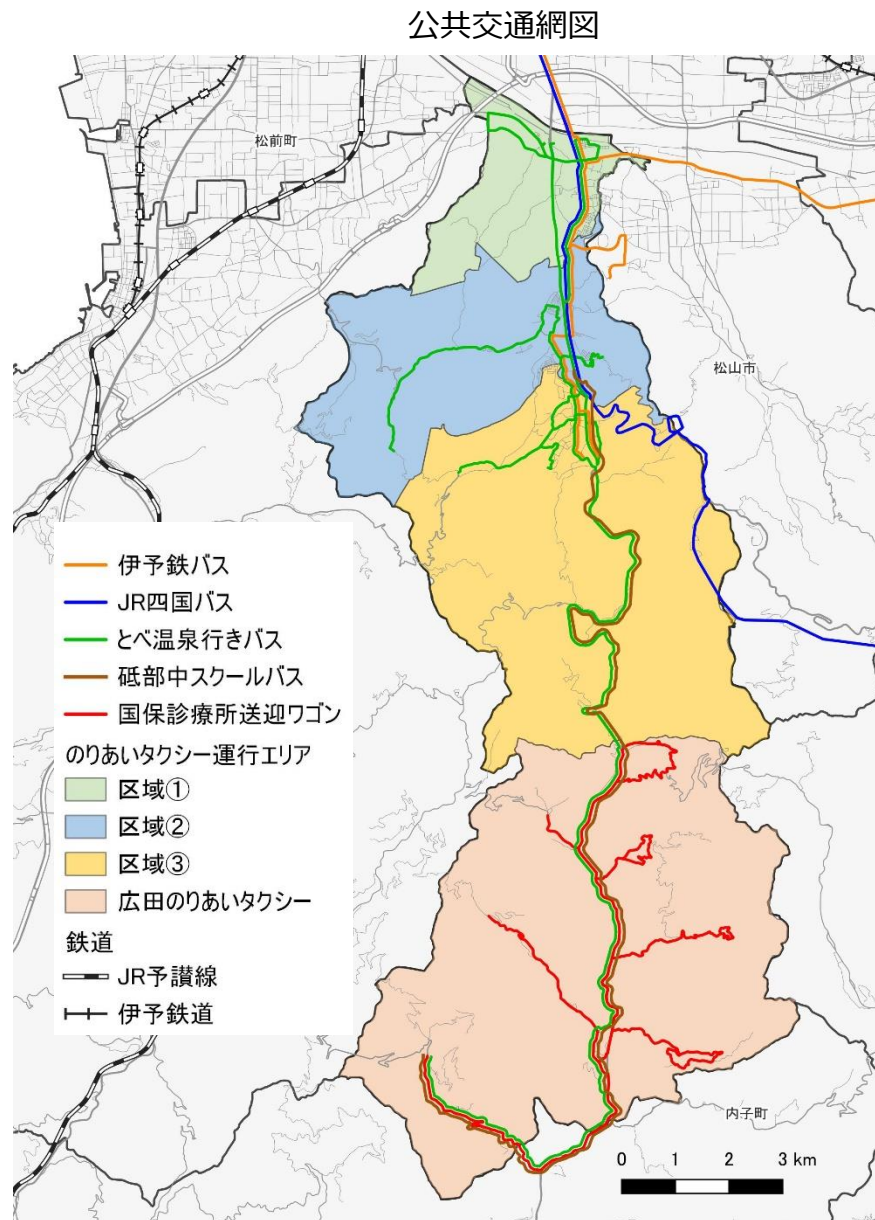


- ・その他関連する計画として以下のようなものがある。

計画の名称	記載のある項目	関連する方針・取組・事業
第2期砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (令和2年度～令和6年度)	基本目標3 住みつづけたいアートタウン (イ)～ちょっと不便に味がある～田舎暮らし支援プロジェクト ②公共交通整備事業	<方針> バス路線がない広田地域の移動手段を確保するため、生活拠点を中心に、需要規模に応じたデマンド交通等による最適な生活交通ネットワークを構築する。 また、砥部地域においても主たる公共交通である路線バスやタクシー運行について環境改善を図る。 <事業> ・バス路線案内板等整備事業 ・バス停留所の上屋等整備事業 ・主要バス停駐車場・駐輪場等整備事業 <重要業績評価指標（KPI）> ・地域公共交通等利用者数 砥部地域：2,200人（令和6年度） 広田地域：4,753人（令和6年度） ・利便性向上のための施設整備件数 延べ3件（令和6年度）
砥部町高齢者福祉計画及び 第9期介護保険事業計画 (令和6年度～令和8年度)	基本目標2 高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らせるための仕組みづくり (2) 高齢者を見守る地域の体制づくり ⑦高齢者の移動支援の充実	<施策の方向性> 引き続きのりあいタクシー及びとべ温泉行きバスの運行を実施するとともに、高齢者の運転免許自主返納事業を実施します。 <主な取り組み> ・運転免許自主返納支援事業の実施 ・のりあいタクシーの実施 ・とべ温泉行きバスの実施
砥部町障がい者計画 (令和3年度～令和8年度)	基本目標6 交流と社会参加活動の促進 基本施策15 地域における交流機会の充実	<取組内容> タクシー利用助成事業の内容を充実し、障がい者の社会参加や経済的な負担の軽減を図ります。

移動環境の現状

- 砥部町で運行されている公共交通は路線バス、のりあいタクシー、タクシーがあり、その他に砥部中学校スクールバス、とべ温泉行きバス、国保診療所送迎ワゴンがある。
- 区域運行ののりあいタクシーが町の全域をカバーしており、交通空白地は無くなっている。

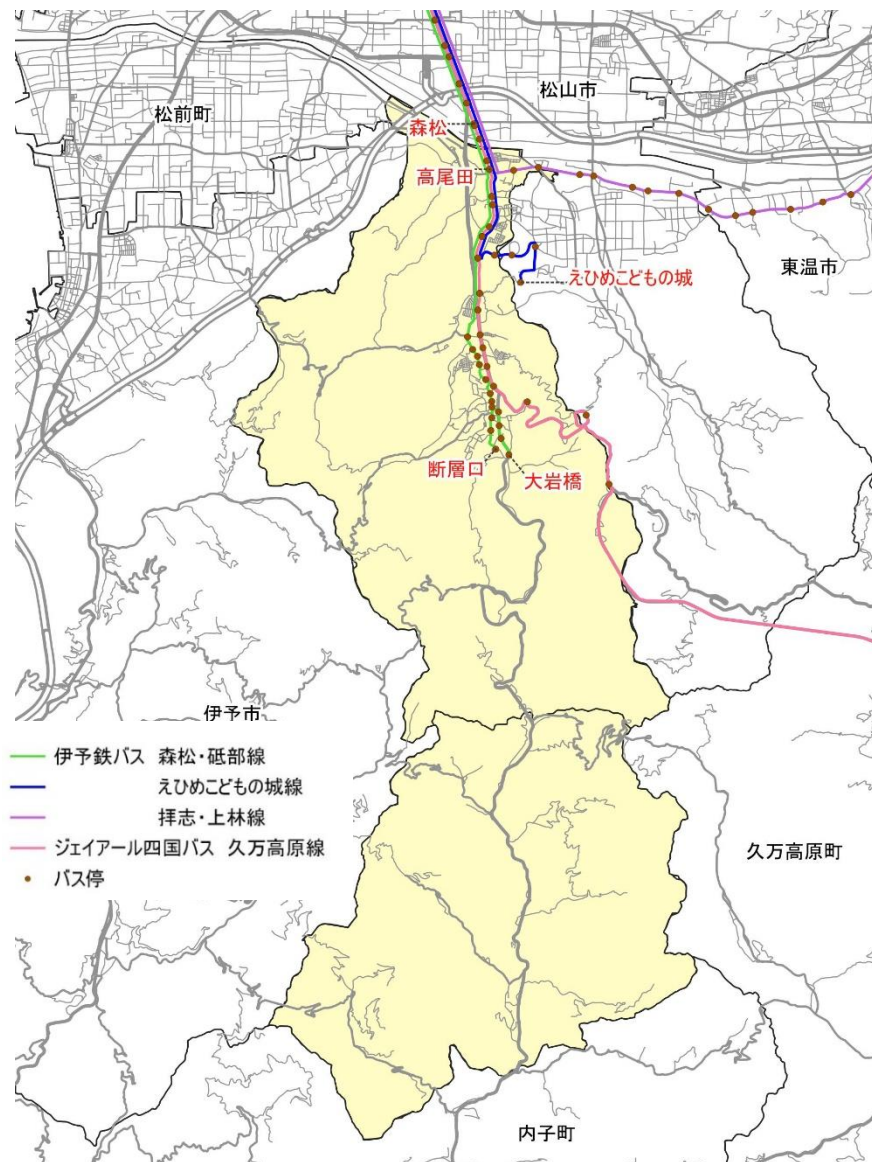


- 路線バスは伊予鉄バスとジェイアール四国バスの2社で合わせて4路線7系統が運行されている。
- 森松・砥部線が平日1日あたり44.5回と最も運行回数が増えている。
- 伊予鉄バス全線での全国交通系ICカードのICOCA導入やGTFS-RTの整備着手、みきゃんアプリとの連携などDXの取組が進んでいる。
- 伊予鉄バス、ジェイアール四国バスともに乗務員不足の状況にあり、路線維持に向け予断を許さない状況である。

路線バス運行概要

運行事業者	路線名	運行日	運行回数 (平日)
伊予鉄バス	森松・砥部線	毎日	44.5回
	とべ動物園・えひめこどもの城線	毎日	16.0回
	拝志・上林線	毎日	1.0回
ジェイアール四国バス	久万高原線	毎日	8.5回

路線バス網図



- ・ 砥部地域、広田地域それぞれでのりあいタクシーが運行されている。
- ・ 砥部のりあいタクシーは、乗車場所と同一運行区域内の指定乗降場所または利用者の自宅の間で利用できる。
- ・ 広田のりあいタクシーは広田地域内の自宅と砥部町中心部の指定施設の間で利用できる。
- ・ 広田地域はタクシー営業所及び車両待機所から離れているため、広田のりあいタクシーの1運行あたりの回送距離及び所要時間が長く、負担が大きい。

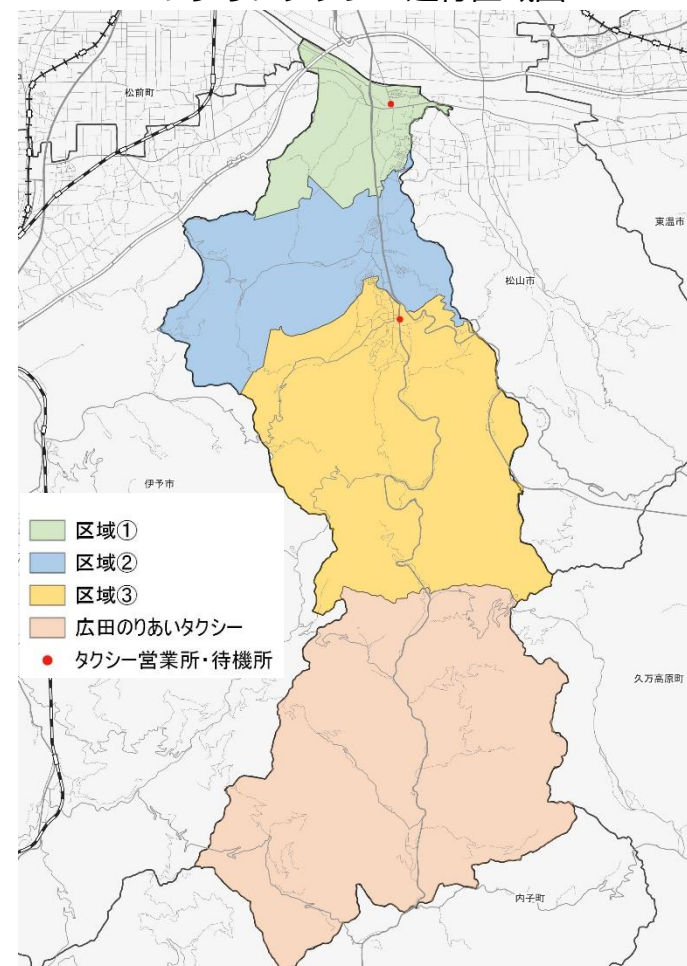
砥部のりあいタクシーの運行概要

	区域①（麻生小学校区）	区域②（宮内小学校区）	区域③（砥部小学校区）
対象地区	八倉、重光、拾町、麻生、三角、田ノ浦、高尾田、原町、上原町	川井、七折、大角蔵、宮内、千足	北川毛、五本松、外山、鶴崎、大南、岩谷口、岩谷、大平、川登、万年
利用可能施設	商業施設（スーパー、ドラッグストア、ホームセンター）10施設 医療機関（病院、診療所、内科、耳鼻咽喉科、歯科、小児科）22施設 その他（バス停、役場）9施設		
運行日	月～土（※祝日・振替休日・12/29～1/3を除く）		
運行時間	9:00～16:00		
乗車場所	自宅、もしくは指定乗降施設（各運行区域内での利用に限る）		
運賃	1乗車200円		

広田のりあいタクシー運行概要

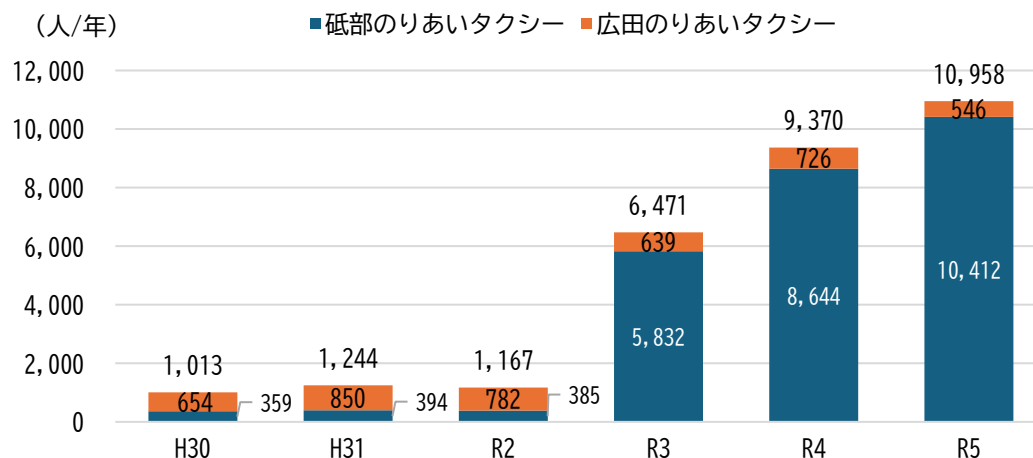
対象地区	広田地域全域（広田地域内での利用は不可）
利用可能施設	商業施設：Aコープ城南店、Aマートとべ店、パルティフジ砥部店、スーパー田中 医療機関：砥部病院、豊島医院、山本クリニック、101クリニック その他：SPA P・SPO湯砥里館 とべ温泉、砥部町役場
運行日	毎週月・水・金曜日
運行時間	行き（広田地域→砥部地域中心部・広田地域発時刻）：8:30、11:00、14:00 帰り（砥部地域中心部→広田地域・砥部中心部発時刻）：10:00、12:00、15:00
運賃	1乗車500円

のりあいタクシー運行区域図

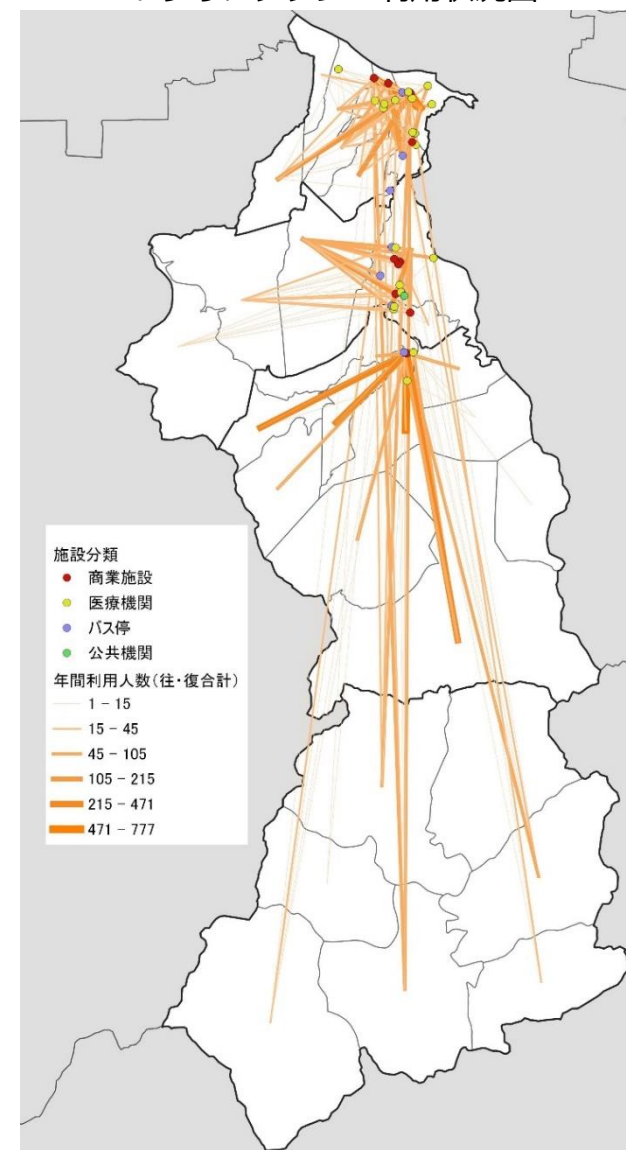


- 砥部のりあいタクシーにおいて、運行区域や利用可能日の拡大、ダイヤを設けず9:00～16:00の好きな時間に利用可能とするなどの再編を令和2年度に行い、令和3年度以降砥部のりあいタクシーの利用者が大きく増加している。
- 広田のりあいタクシーは例年500～700人程度の利用がある。

のりあいタクシーの年間利用者数推移



のりあいタクシー利用状況図



- 町内にはタクシー会社の営業所と車両待機所が1ヶ所ずつある。
- 砥部地域はほぼ全域が営業所・車両待機所から半径5km圏内になっている一方、広田地域は全域が半径5km圏外となっている。
- 運転士不足の状況にあり、配車待ちが発生する場合もある。

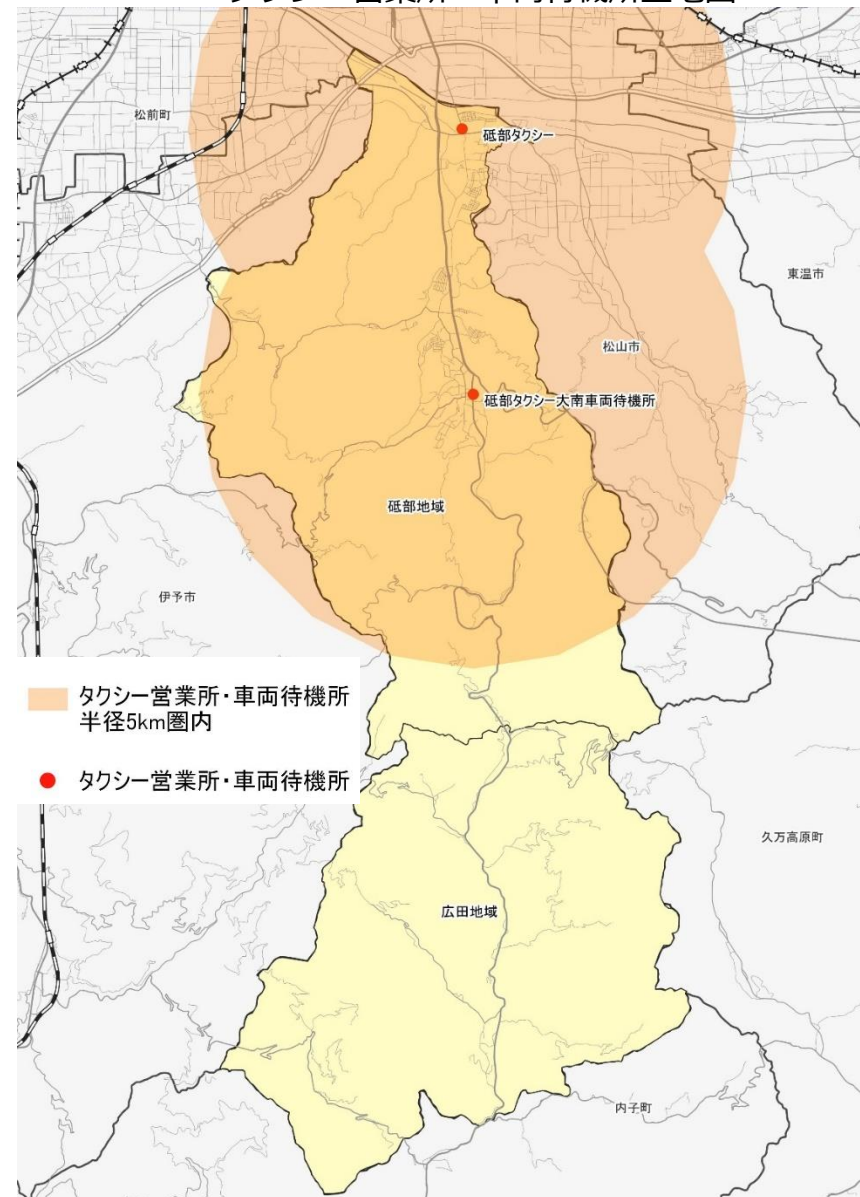
砥部タクシー本社



砥部タクシー大南車両待機所



タクシー営業所・車両待機所立地図



- ・町内で実施されている送迎サービスには以下のようなものがある。

砥部中学校スクールバス	広田地域方面から砥部中学校に通う生徒向けにスクールバスが運行されている。事前に利用者登録をすることで砥部中学校の生徒以外も利用可能だが、令和5年度の一般利用者は0人である。
とべ温泉行きバス	万年・広田・大南便、大角蔵・七折・宮内・高尾田便、外山・五本松・岩谷口・八倉便の3路線がそれぞれ週1回ずつ運行している。買物等とべ温泉以外の外出目的でも利用可能であり、運賃は無料。
国保診療所送迎ワゴン	広田地域の各地区と国保診療所を結ぶように運行されている。国保診療所の通院患者以外にも利用可能であり、広田地域内における移動手段としての役割があるが、令和5年度の通院患者以外の利用は0人である。
その他の送迎	砥部病院、Aコープ城南店など、医療機関や商業施設で個別送迎を行っている施設もある。

砥部中学校スクールバス



とべ温泉行きバス



Aコープ城南店の送迎バス

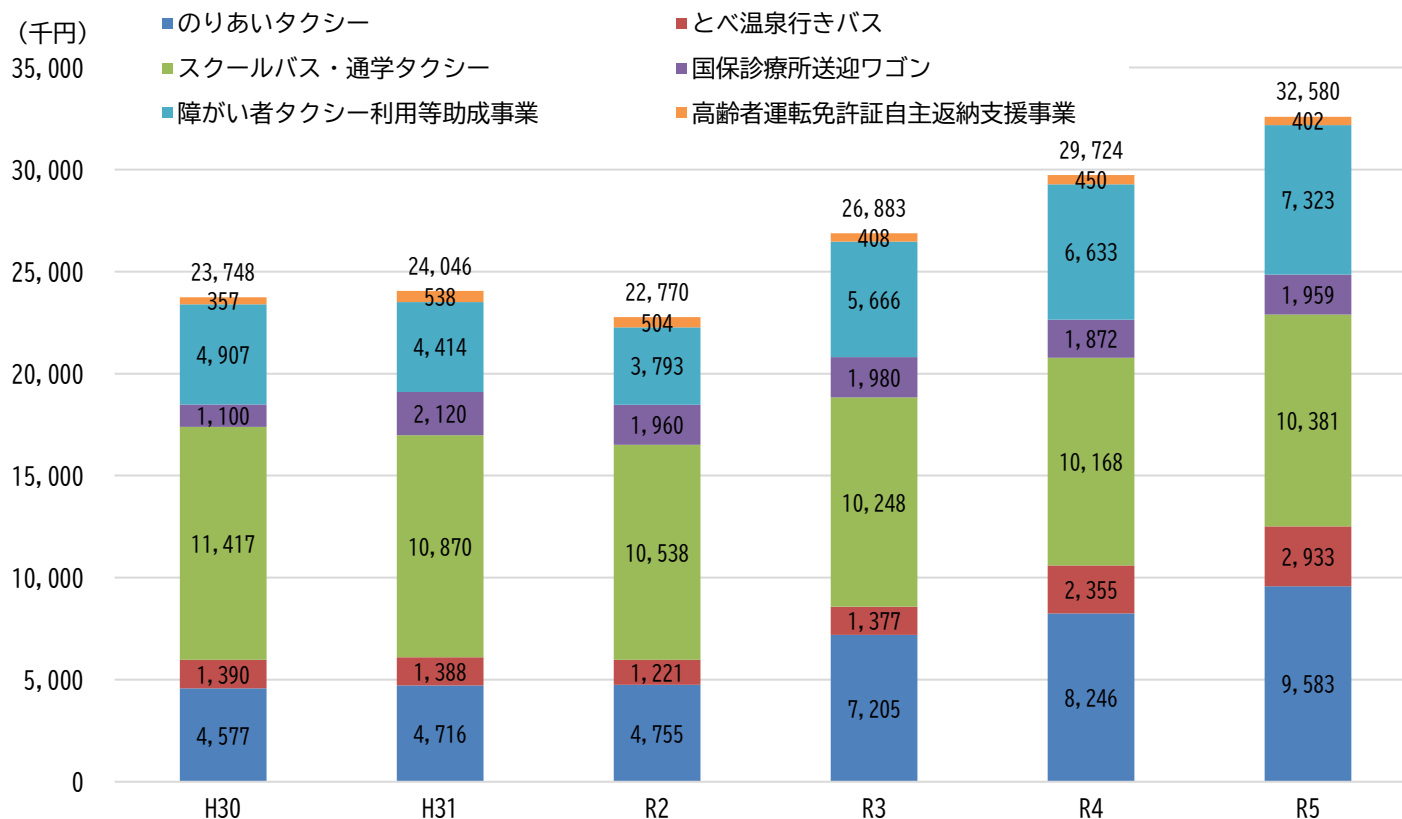


- ・砥部町で実施されている移動に関する支援制度として以下のような事業がある。

広田地区高校生通学タクシー	令和5年度より広田地域に居住する高校生の通学を支援するために、広田地区高校生通学タクシーが運行されている。6:20広田地域発の便と、20:30大南待機所発の便の計2便が運行されており、3名が利用している。
高齢者運転免許証自主返納支援事業	高齢者の運転免許証自主返納や代替移動手段確保のために実施している。町内に居住する65歳以上の高齢者が免許を返納した際に、伊予鉄道株式会社発行のICカード（ICい〜カード）、タクシー利用助成券、自転車購入助成券のいずれかを5,000円分受け取ることができる。例年100人程度の申請がある。
障がい者タクシー利用等助成事業	在宅で生活している障がい者の社会参加促進や、障がい者本人及び家族の経済的負担軽減を目的として、タクシー利用料金および自動車等燃料給油費の一部を助成している。1枚580円分の助成券が1ヶ月あたり3枚交付される。交付者数及び利用枚数は令和2年度以降増加傾向にある。

- ・ 砥部町における公共交通への財政支出は令和3年度以降増加傾向にあり、令和5年度は約3,260万円となっている。
- ・ スクールバス・通学タクシーへの支出が最も大きく、例年約1,000万円程度の支出となっている。

移動に係る財政支出の推移



※端数の関係で合計が合致しない場合がある

町民アンケート結果抜粋

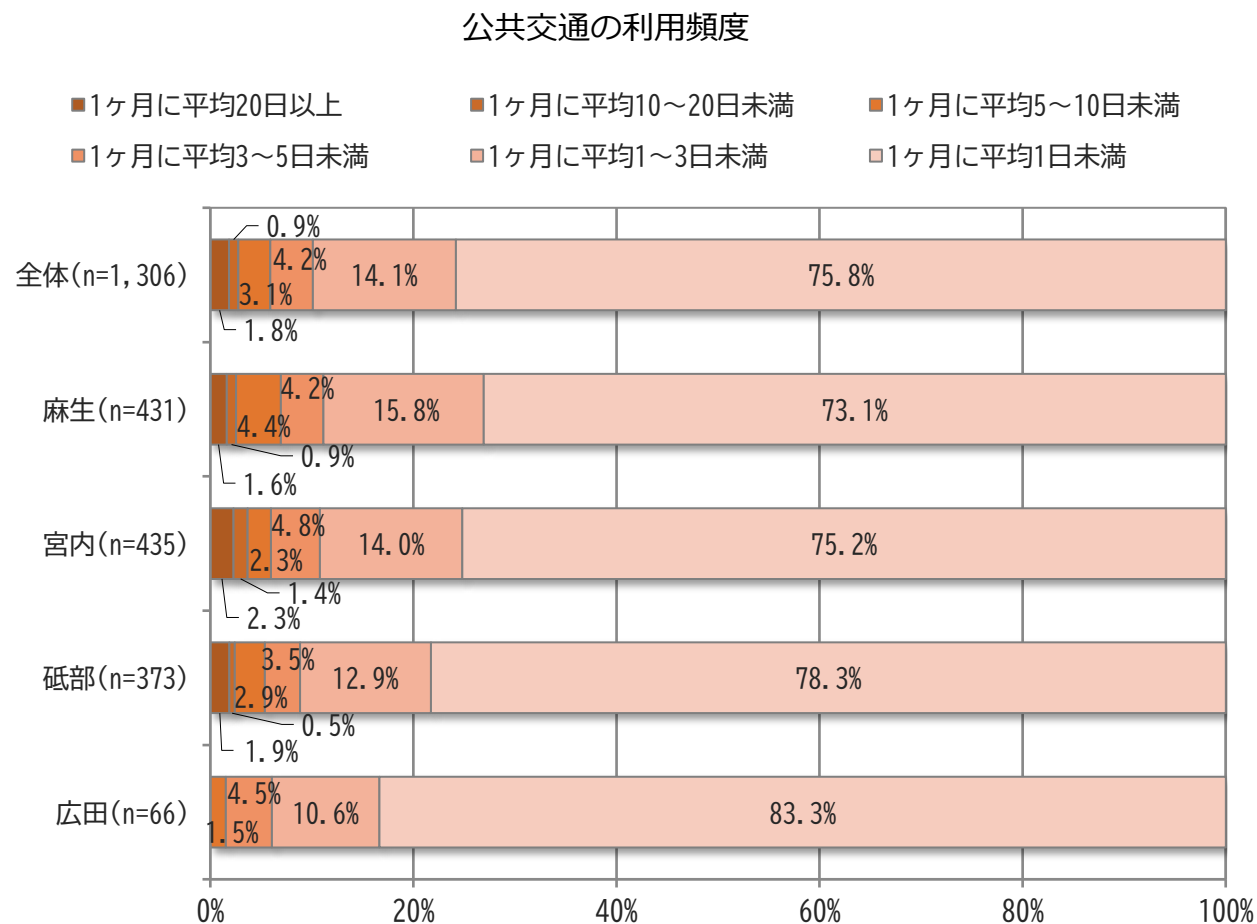
普段利用する交通手段

- 25～79歳では最もよく利用する交通手段として自分で自家用車を運転が多い。
- 15～24歳では自転車や家族の送迎なども多い。
- 65歳以上になると年齢層が上がるにしたがって自分で自家用車を運転の回答が減少し、家族が自家用車で送迎することが多くなる。
- 80歳頃まで自分で運転をする人が多い。

最もよく利用する交通手段

居住地区	年齢層	自分で自家用車を運転	家族が自家用車で送迎	バイク(原付を含む)	自転車	路線バス(伊予鉄バス)	路線バス(JR四国バス)	砥部中学校バス	とべ温泉行きバス	国保診療所送迎ワゴン	のりあいタクシー	タクシー	その他	回答者数
麻生	15～24歳	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3
	25～39歳	83.8%	5.4%	8.1%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37
	40～64歳	85.6%	1.3%	6.9%	4.4%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	160
	65～74歳	76.2%	7.4%	9.0%	0.8%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	122
	75～79歳	80.8%	11.5%	1.9%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	0.0%	52
	80歳以上	34.1%	30.8%	1.1%	2.2%	15.4%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	6.6%	2.2%	6.6%	91
宮内	15～24歳	28.6%	14.3%	0.0%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7
	25～39歳	95.8%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	24
	40～64歳	93.7%	0.7%	2.1%	1.4%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	143
	65～74歳	86.3%	5.8%	2.2%	1.4%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	139
	75～79歳	67.4%	14.1%	6.5%	4.3%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	2.2%	2.2%	92
	80歳以上	46.3%	18.8%	5.0%	1.3%	10.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	3.8%	12.5%	1.3%	80
砥部	15～24歳	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4
	25～39歳	91.4%	8.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	35
	40～64歳	89.9%	2.9%	2.9%	0.7%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	138
	65～74歳	82.4%	8.1%	2.9%	3.7%	0.7%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	136
	75～79歳	71.9%	10.9%	3.1%	3.1%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	64
	80歳以上	41.9%	36.5%	2.7%	2.7%	4.1%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	6.8%	2.7%	1.4%	74
広田	15～24歳													0
	25～39歳	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5
	40～64歳	84.0%	12.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25
	65～74歳	95.7%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	46
	75～79歳	80.0%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15
	80歳以上	38.2%	47.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%	2.9%	34

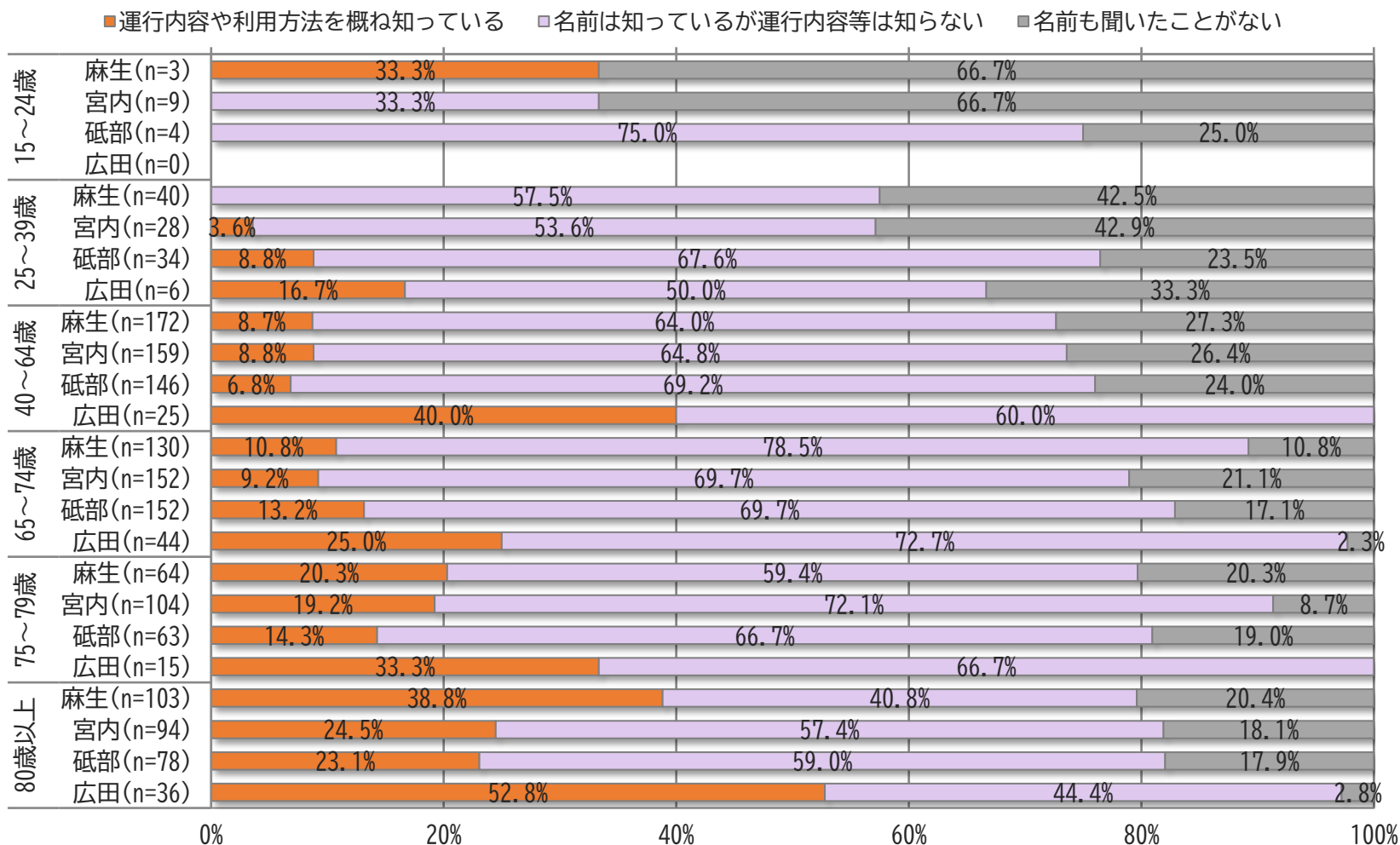
- 公共交通の利用頻度は全小学校区で1ヶ月に平均1日未満が最も多く、町南部に向かうにしたがって公共交通の利用頻度が減少する傾向にある。



のりあいタクシーの認知状況

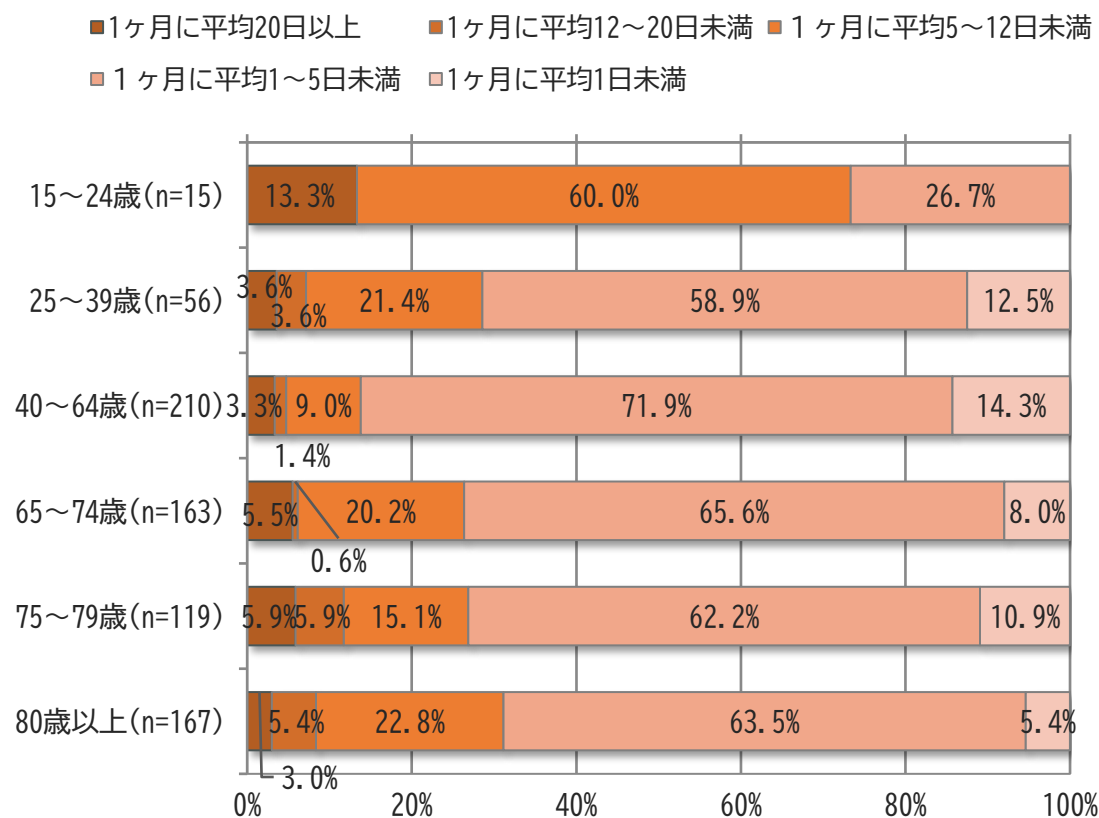
- 年齢が上がるにつれてのりあいタクシーの運行内容や利用方法を概ね知っているとする回答の割合が高くなる。
- 広田小学校区ではいずれの年齢層においても砥部地域の3小学校区と比べてのりあいタクシーの認知度が高い。

のりあいタクシーの認知状況

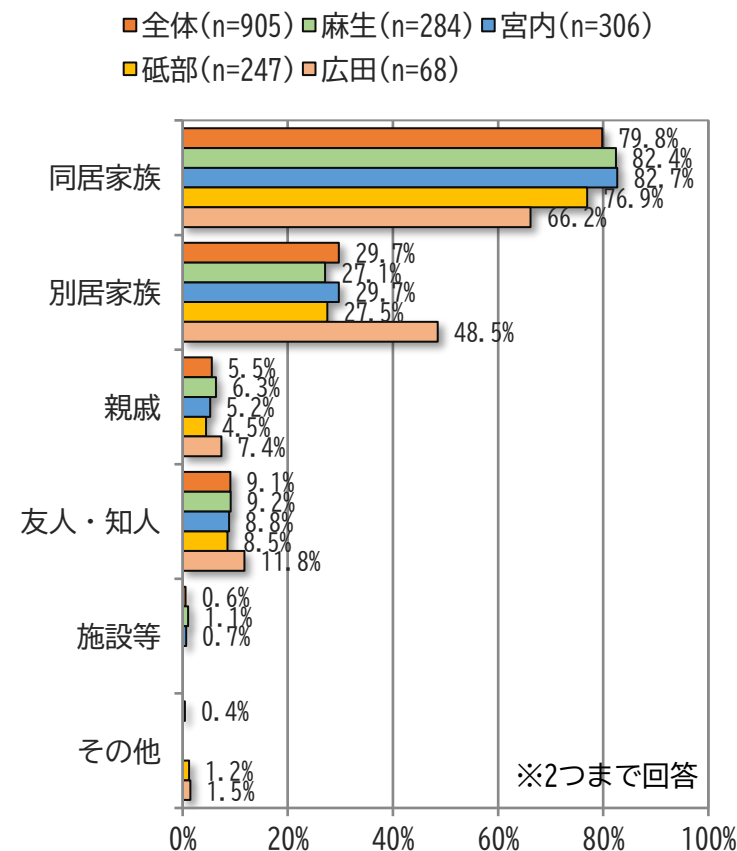


- 15～24歳で送迎をしてもらう頻度が最も高く、40～64歳の層まで年齢が上がるにつれて送迎をしてもらう頻度が減少し、65歳以上では年齢が上がるにつれて1ヶ月に平均5日以上送迎をしてもらう頻度が増加する。
- 全町的に同居家族による送迎が最も多く、次いで別居家族による送迎が多い。
- 広田小学校区では他の小学校区より別居家族に送迎してもらうという回答割合が高い。

送迎をしてもらう頻度

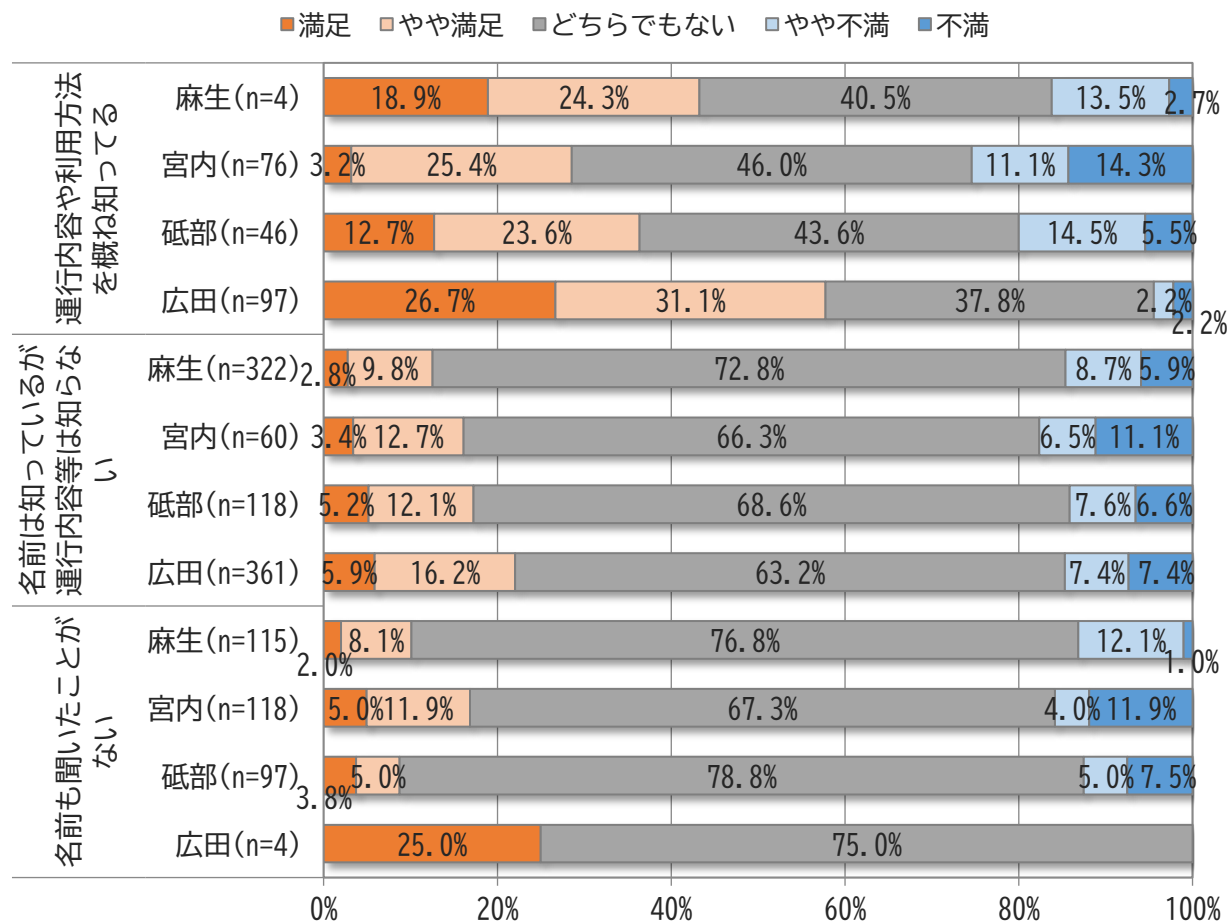


送迎をしてくれる人との関係



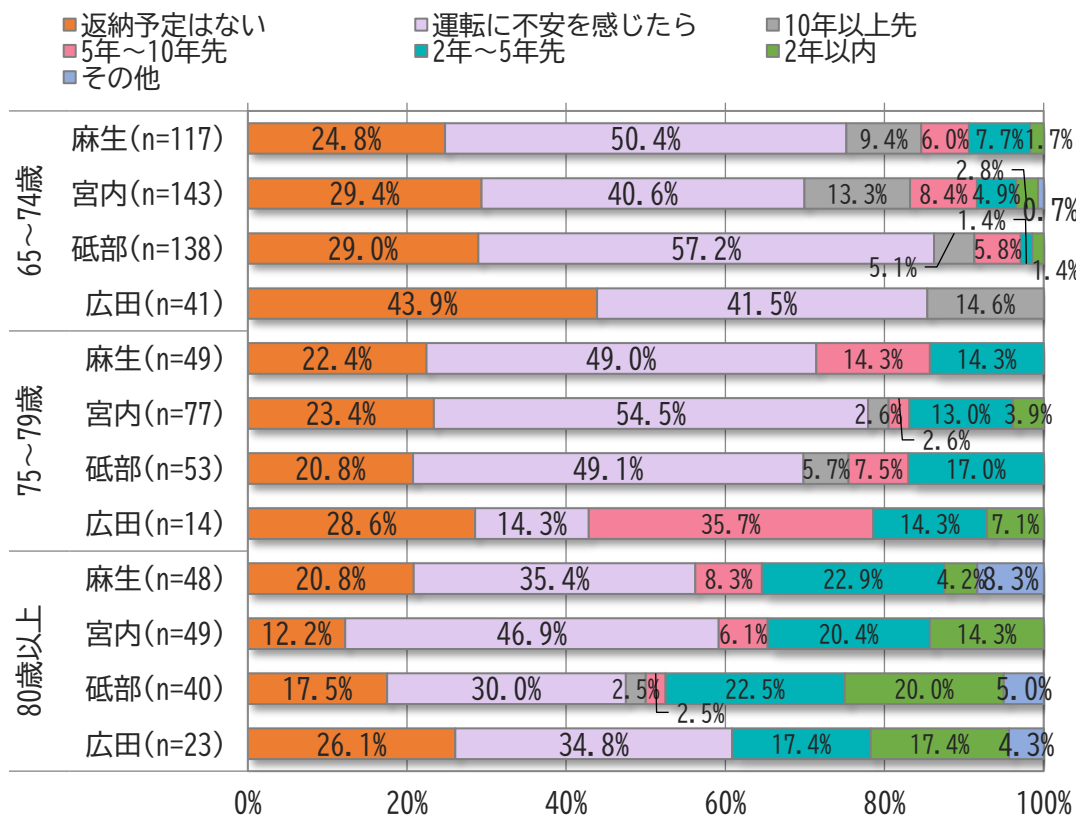
- ・ 広田小学校区では他の小学校区よりも公共交通及び移動サービス全般への満足度が高い。
- ・ のりあいタクシーの運行内容や利用方法を概ね知っている人は、そうでない人より公共交通及び移動サービス全般への満足度が高い傾向にある。

のりあいタクシーの認知状況・居住地別砥部町の公共交通及び移動サービス全般の満足度

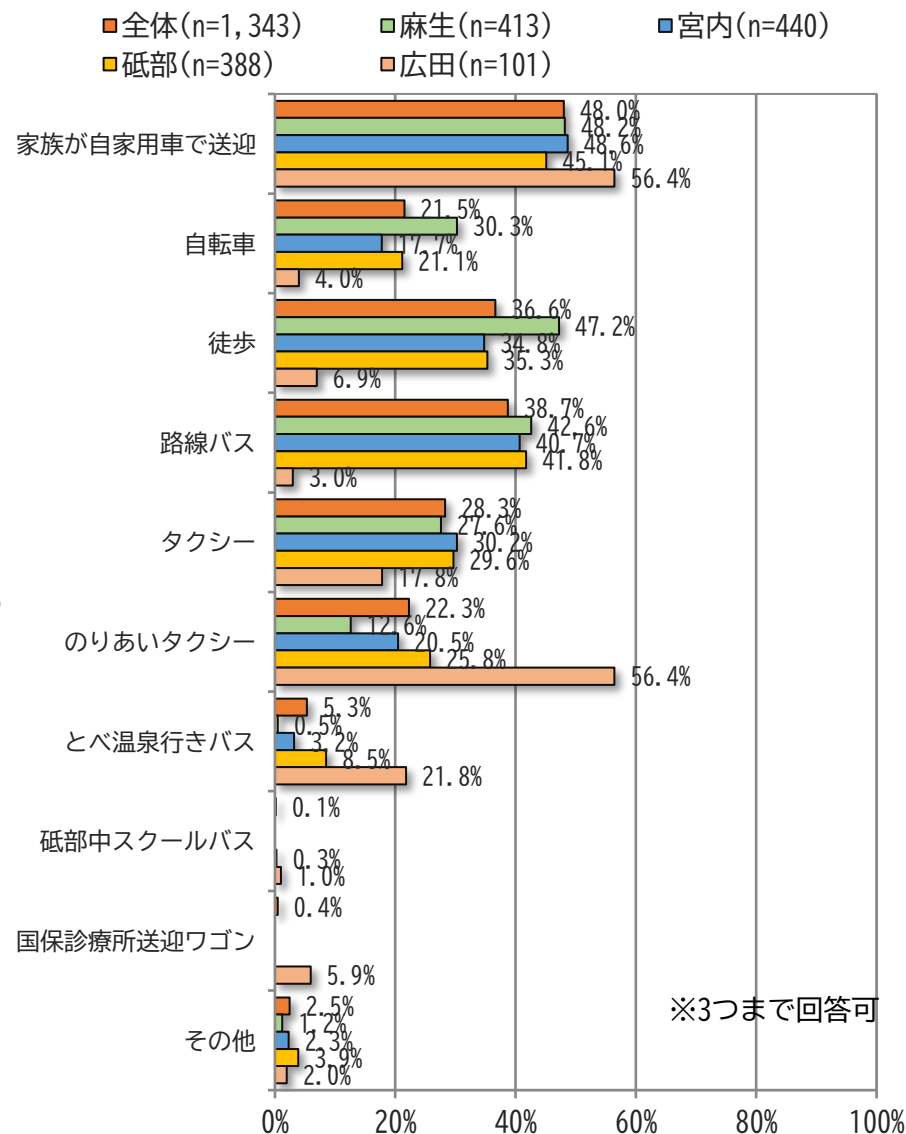


- 年齢が上がるにつれて免許の返納意向が高まる。
- 免許返納後の移動手段として、全町的に家族による送迎の回答割合が高い。
- 砥部地域の3小学校区では路線バスや徒歩が、
広田小学校区ではのりあいタクシーやとべ温泉行きバスが多く回答されている。

居住地・年齢層別運転免許返納予定（65歳以上回答者）



運転免許を返納した場合の通院や買い物での移動手段

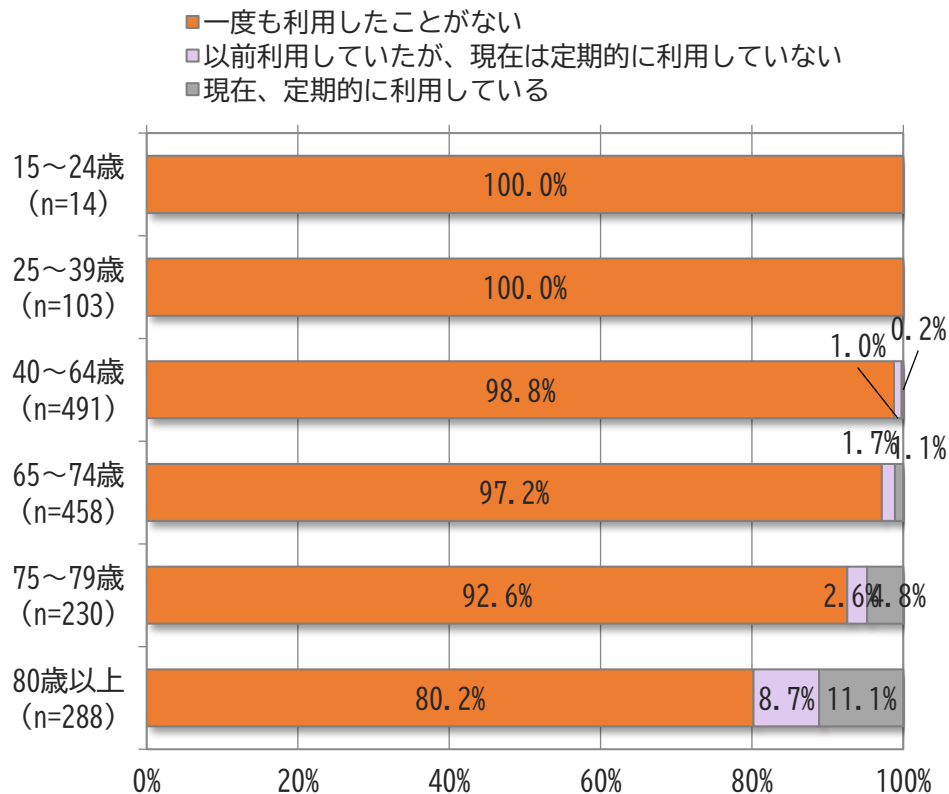


のりあいタクシー アンケート結果抜粋

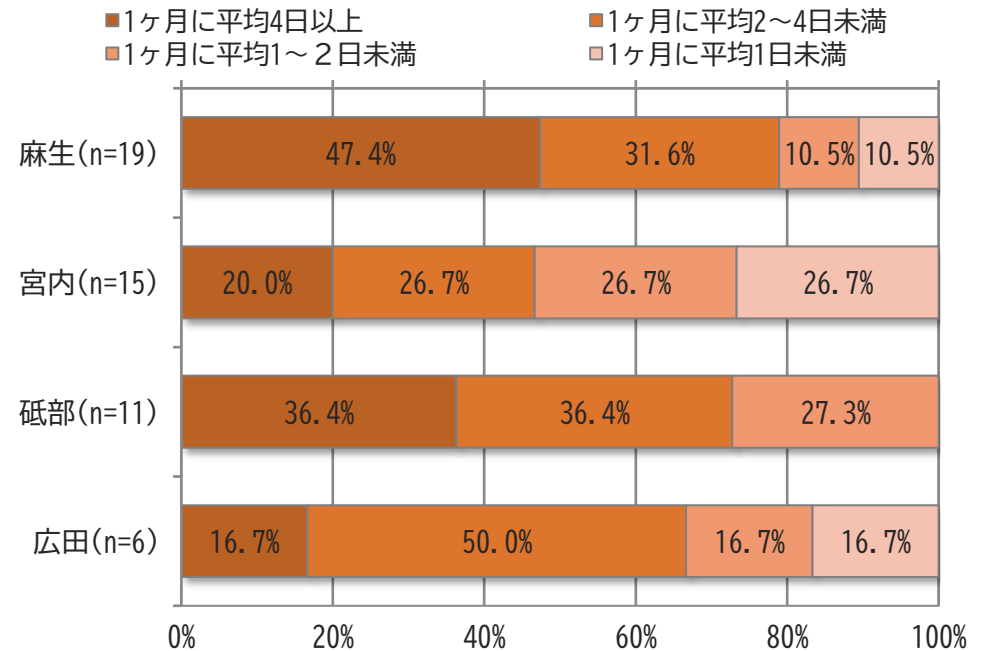
のりあいタクシーの利用状況

- 一度も利用したことがない、以前利用していたが現在は定期的に利用していないという回答がほとんどを占めている。
- 年齢層が上がるほどのりあいタクシーの利用が増加する傾向にあり、80歳以上では2割程度がのりあいタクシーを1度は利用したことがあると回答している。
- 39歳以下では、のりあいタクシーを利用したことがあるという回答はない。

のりあいタクシーの利用状況



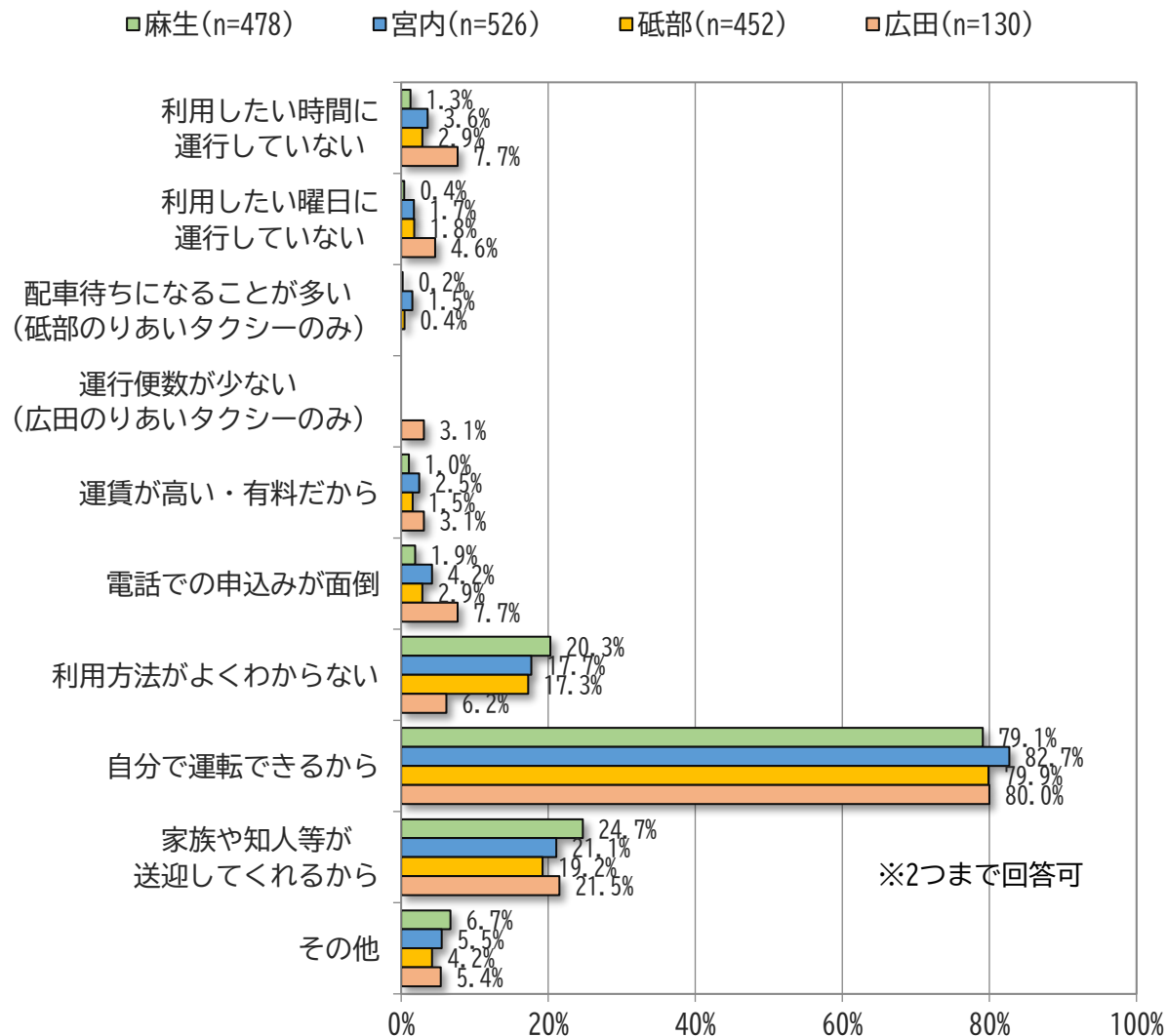
のりあいタクシーの利用頻度



のりあいタクシーを利用しない理由

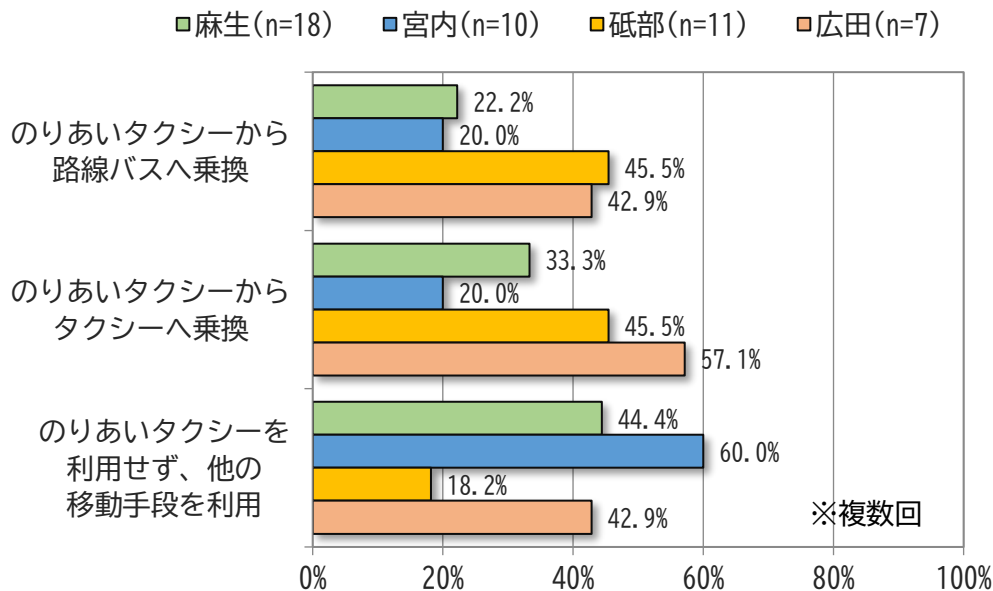
- 全町的に、自分で運転できるから、家族や知人等が送迎してくれるからとする回答が多い。
- 砥部地域の3小学校区では利用方法がよくわからないという回答も多い。

のりあいタクシーを利用しない理由

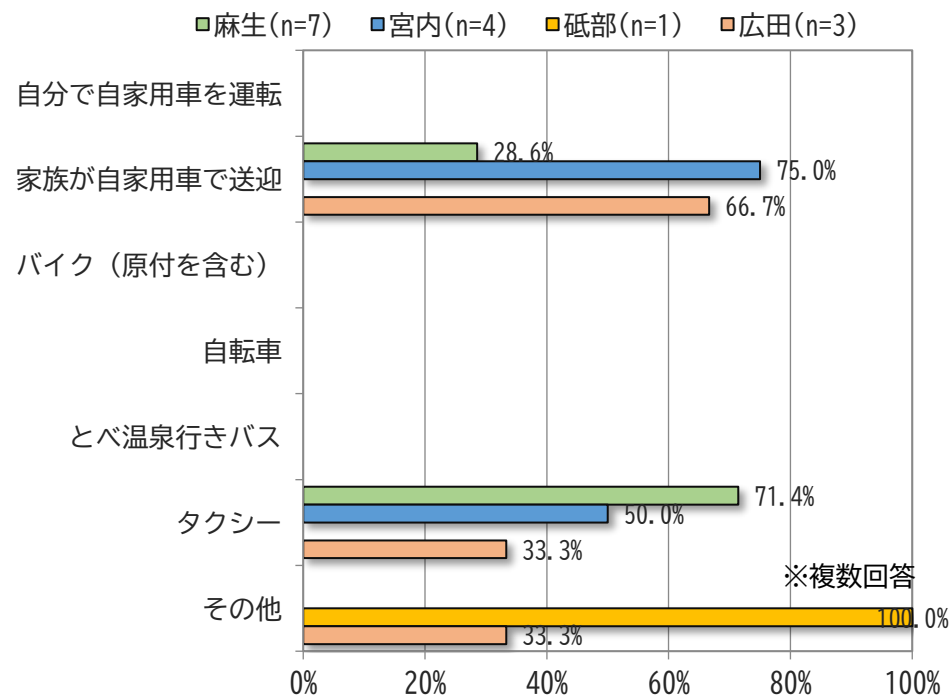


- のりあいタクシーから、路線バスやタクシーへの乗り継ぎが行われている。
- 麻生小学校区、宮内小学校区ではのりあいタクシーの降車場所と目的地が離れている場合に他の移動手段を利用するという回答が多く、家族の送迎やタクシーが利用されている。

のりあいタクシーの降車場所と目的地が離れている場合の移動手段

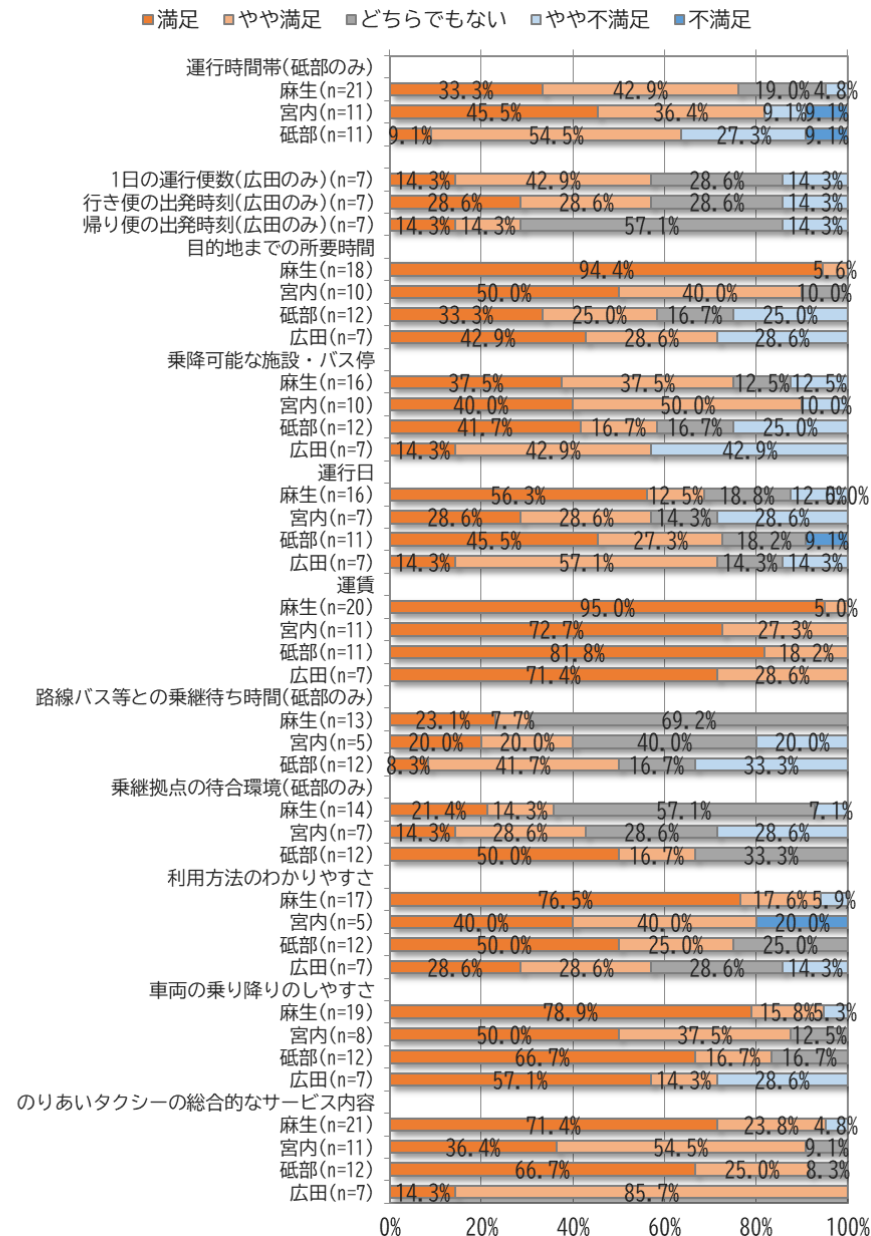


他の移動手段の詳細



- 概ねのりあいタクシーの満足度は高い。
- 砥部のりあいタクシーでは路線バスと乗継待ち時間や乗継拠点の待合環境で、広田のりあいタクシーでは帰りの出発時刻で他の項目と比べて満足度が低い傾向にある。

のりあいタクシーの満足度



既存計画の取組状況と目標達成状況

既存計画の取組状況と目標達成状況

- ・ 砥部町地域公共交通網形成計画の評価指標は概ね達成しているが、コロナ禍等の影響で未達成となっている項目もある。

目標	評価指標	評価指標の推移							目標値
		現状	R元 2019 年度末 (1年目)	R2 2020 年度末 (1年目)	R3 2021 年度末 (2年目)	R4 2022 年度末 (3年目)	R5 2023 年度末 (4年目)	R6 2024 年度末 (5年目)	
1 地域での暮らしを守る地域公共交通網の構築	交通空白地に居住する人口割合	8.7%	8.70%	8.70%	0%	0%	0%		0.0%
	のりあいタクシー、とべ温泉行きバス、国保診療所送迎ワゴンの合計年間利用者数	3,175人	3,268人	2,863人	7,824人	11,054人	12,684人		4,000人
	JR四国バス年間利用者数（※令和4年度計画変更により追加）	38,969人（R3）			38,969人	37,410人	43,175人		40,777人
	町民の地域公共交通に対する満足度（注）	3.06	－	－	－	－	－	3.02	3.30
	スクールバスの活用	－	1事業	1事業	1事業	1事業	2事業		2事業
	乗務員研修会の開催	－	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回		年1回
2 地域と共に守る地域公共交通網の構築	運行見直し基準の運用	－	未設定	未設定	未設定	設定済	設定済		年1回
	地域公共交通セミナー等の開催	－	0回	0回	0回	0回	0回		年2回
	バスの乗り方教室の開催	－	0校	1校	2校	3校	4校		全小中学校（5校）で開催
3 人にやさしい地域公共交通網の構築	わかりやすい公共交通情報の提供	－	0事業	0事業	1事業	1事業	1事業		2事業
	停留所の待合環境整備	－	0停留所	0停留所	1停留所	1停留所	1停留所		1停留所
	パークアンドライド用駐車場・駐輪場整備	－	0箇所	0箇所	0箇所	0箇所	1箇所		3箇所

（注）住民アンケートの調査結果において、砥部町の公共交通及び移動サービス全般に対して「満足」を5、「やや満足」を4、「どちらでもない」を3、「やや不満」を2、「不満」を1とした平均値。1～5の範囲で値が高いほど満足度が高く、3未満は不満傾向を示す。

- 個別事業については、のりあいタクシーの再編等は概ね実施できているが、スマホ講習会や地域公共交通セミナーの開催等が未実施の状況である。

目標	事業名	実施主体			事業の内容・イメージ	実施状況
		町	交通事業者	地域住民等		
1 地域での暮らしを守る地域公共交通網の構築	①とべ温泉行きバスの再編	●	●	●	・とべ温泉行きバスの各路線を高尾田バス停まで路線延長し、町民の松山市への移動利便性向上を図る ・延長ルートは、町民が買物で最も利用するフジ砥部店、セブンスター砥部店と通院で最も利用する砥部病院の3施設を経由するルートとする ・延長ルートは、民間バス路線と競合しないようなルート・規則を設定する	○
	②のりあいタクシーの再編	●	●	●	<砥部のりあいタクシー> ・運行区域をバス停から400m圏内も含めた旧砥部町地域全域に拡大し、交通空白地域・交通不便地域の解消を図る ・利用区間を最寄りの民間路線バス停留所までに限定し、民間路線バスの利用促進を図る ・運行ダイヤを設けず、運行時間帯内で、予約時間等を気にせず自由に利用できる方向で検討する <広田のりあいタクシー> ・広田地域内の移動利用を廃止し、地域住民の地域内移動は、国保診療所送迎ワゴンで対応する	○
	③国保診療所送迎ワゴンの再編	●	●	●	・現在の通院患者送迎ダイヤの空き時間を利用して増便し、買物利用等の利便性の向上を図る ・通院患者の送迎や診療所の運営に支障をきたさない範囲において、地域内で開催される定期・不定期のイベント等の送迎に活用できるように運用の拡大を図る	○
	④スクールバスの活用	●	●		・地域住民が利用しやすいように利用者証申請や予約などの制度・手続きを見直す ・高齢者でも毎月変わる時刻表情報を簡単に得ることができるような情報媒体の活用を検討する ・地域の高齢者を対象に時刻表のメール受信や掲載サイトへのアクセス方法に関する携帯電話・スマートフォンの講習会等を検討する ・砥部中学校、広田小学校のスクールバス車両による地域イベント参加者の送迎等、通学に支障をきたさない範囲での目的外利用を検討する	△
	⑤安全・安心運行の徹底	●	●		・町が事業主体となる旅客運送事業運転者（二種免許取得者を除く）を対象に大臣認定講習実施機関での運転者講習を実施する ・町が事業主体となる旅客運送事業（のりあいタクシーを除く）ごとに運行管理者を選任するとともに、運行管理規程、整備管理規程を整備し、安全運行の徹底を図る ・町が事業主体となる旅客運送事業ごとに町としての乗務員服務規程等を整備し、利用者対応の平準化、ホスピタリティの向上など安全・安心運行の徹底を図る	△
2 地域と共に守る地域公共交通網の構築	①運行見直し基準の設定	●	●	●	・町として最低限確保する公共交通のサービス水準を設定した上で、利用者数や運行経費を考慮した路線の運行見直し基準を設定する ・運行見直し基準の設定にあたっては、評価、運用の容易性を考慮し、利用者数、運行経費をベースに検討するとともに、住民意見を踏まえ、運行地域の特性を加味して検討する ・見直し基準の運用にあたっては、前年度利用実績を広報等で公表し、見直し基準を下回った路線は、6ヵ月から1年程度の利用促進期間を設け、利用促進を図る ・そのうえでなお見直し基準を下回る路線については、恒常的な利用者動向等を考慮したうえで見直しを行う	○
	②地域公共交通セミナー等の開催	●	●	●	・公共交通を取り巻く状況など地域公共交通に関するセミナーを開催し、地域公共交通への住民の理解を深める ・町内交通機関の路線毎の利用状況や財政負担状況等を踏まえた上での意見交換の場を設け、地域住民一人ひとりが危機感を持って公共交通の利用促進を考える機運を醸成する ・小中学生を対象にバスの乗り方教室を開催し、子供を介した家族でのバスの日常的な利用を喚起する	△
	③貨客混載輸送の可能性調査	●	●	●	・地域の物流調査を行い、可能性品目を抽出するとともに、とべ温泉行きバス、スクールバスを活用した貨客混載輸送の事業化可能性調査を行う	○
	④高校通学費補助制度の検討	●	●	●	・本町に居住する高校生及び松山南高等学校砥部分校通学者を対象としたバス通学費補助制度の導入を検討する。 ・補助制度の検討にあたっては、恒常的な利用の観点から通学定期券購入補助を中心に先進事例等を踏まえて検討する。	△
3 人にやさしい地域公共交通網の構築	①わかりやすい公共交通情報の提供	●	●		・のりあいタクシーやとべ温泉行きバスの利用案内パンフレットを作成し、全戸配布する ・とべ温泉行きバスの再編に合わせて停留所標識を設置する ・主要バス停に町内の主要施設や主要観光施設等を付記した詳細なバス路線図を設置する ・とべ温泉行きバスへのバスロケーションシステムの導入を検討する	△
	②停留所の待合環境整備	●	●	●	・上りの高尾田バス停に上屋等を整備する	○
	③パークアンドライドの推進	●	●	●	・大岩橋バス停、断層口バス停付近へ路線バス利用者用の駐車場を確保する ・交通結節点および主要バス停付近へ路線バス利用者用の駐輪場を確保する ・住民ニーズを踏まえ、主要バス停付近へバス利用者用シニアカー駐車場確保を検討する	△

移動環境の問題点・課題

1. 幹線路線バスの維持

- 幹線を担う路線バスは、人口減少やコロナ禍等の影響から利用者が減少するとともに、担い手となる運転士も慢性的に不足しており、現状のサービス水準を維持するのも厳しい状況にある。
- 一方で、松山市等の近隣市町との交流が深い砥部町にとって、幹線路線バスは非常に重要であり、都市軸形成の観点でも維持していく必要がある。

伊予鉄バスの車両



ジェイアール四国バスの車両



2. 地域内移動サービスの見直しと持続可能性確保

- ・ 広田地域では現在、国保診療所送迎ワゴンが地域内の移動を担っているが、一部の地区では利用者が極端に少なく、非効率な運行となっている。
- ・ また、国保診療所をはじめとする今後の地域医療のあり方が現在検討される予定となっており、今後はそれに合わせた地域内移動サービスの見直しが必要である。
- ・ のりあいタクシーは、広田地域への配車にあたり、回送距離・時間が極端に長くなることから、運転士が不足する中で事業者負担となっている（一部の時間帯ではタクシーの配車待ちも発生）。
- ・ のりあいタクシーは、運行するタクシー事業者の迎車料金導入等に伴い、委託費が大幅に増加する見込みである。

令和5年度国保診療所送迎ワゴン運行実績

曜日	火		水					木	金	合 計
地区	中野川	仙 波	多居谷	玉 谷	大内野	満 穂	篠 谷	全地域	高 市	
運行 日数	49日		47日					31日	49日	176日
患者 人数	0人	3人	23人	0人	0人	0人	0人	38人	29人	93人
1 日 あたり	0.00人	0.06人	0.49人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	1.23人	0.59人	0.53人

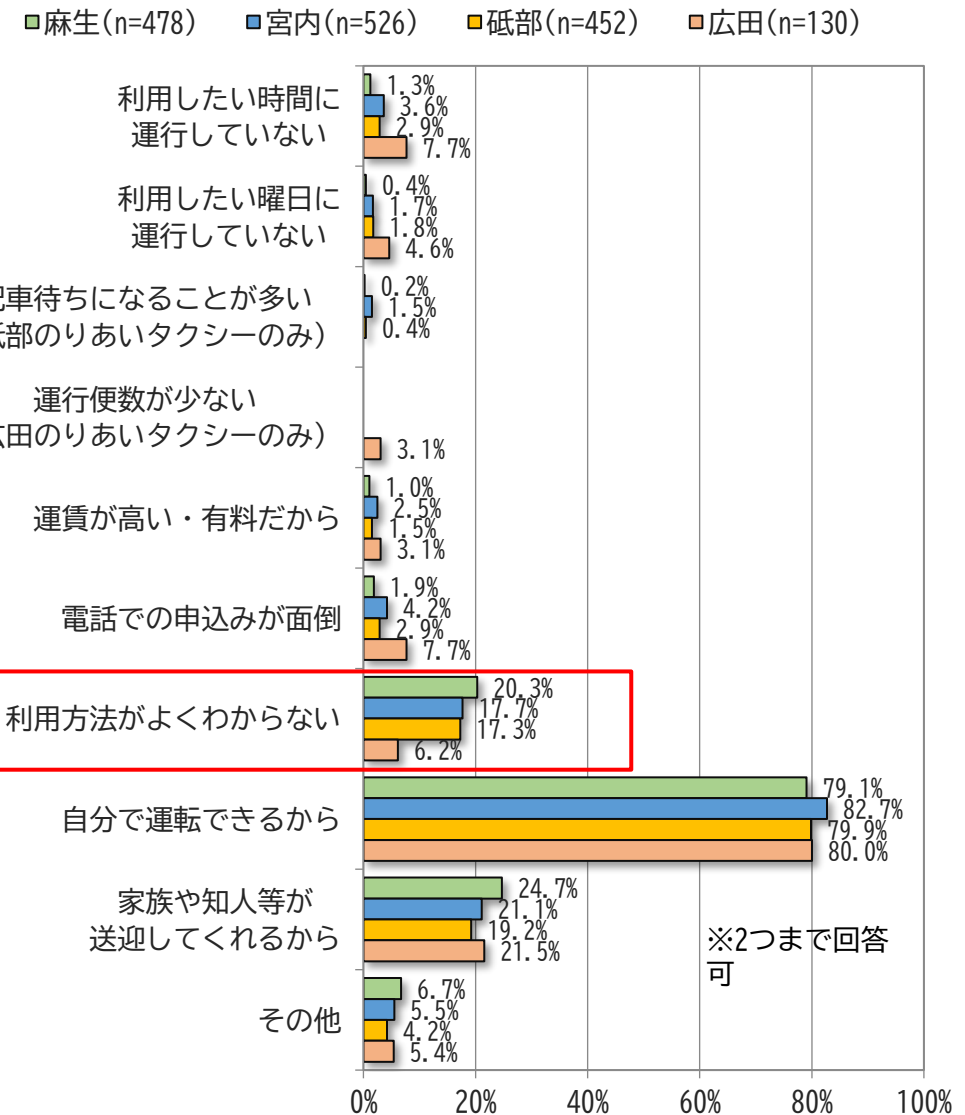
のりあいタクシー車両



3. 新規需要開拓と利用に向けた意識醸成

- のりあいタクシーののべ利用者は増加傾向にあるものの、利用者はごく一部に限定されており、アンケート調査では利用しない理由として、「利用方法がわからないから」という回答が大きな割合を占めている。
- 日常的に公共交通を利用する層がごく一部に限られる中、サービスを維持していくため、普段は自家用車を主に利用する人を含め、新規需要開拓やそのための意識醸成を進める必要がある。

のりあいタクシーを利用しない理由



4. 交通DX・GXの推進

- 全国交通系ICカードの導入や経路検索システムへの運行情報の反映等、交通DXの取組が進められている。
- 一方、こういったサービスが導入されたとしても、利用者側がそれを利用できなければ導入効果は薄れてしまう。
- 公共交通利用者はデジタルサービスを使い慣れていない層も多く、交通DXの取組を普及させるためには利用者に寄り添った周知が必要である。
- 環境問題への関心の高まりから、交通GXの取組も進められている。
- 今後、さらに交通GXの取組を進めるにあたっては、交通事業者や愛媛県等と連携し、基盤整備等を進める必要がある。

伊予鉄バスのEVバス

2025年春からは 郊外電車・路線バス全線に拡大！
チャージはもちろん、通勤定期券の購入・更新もスマホでOKに！

ご利用が可能となるカード

 ICOCA	 Kitaca	 Suica	 PASMO	 manaca (マナカ)	 TOICA
	 PiTaPa	 はやかけん	 nimoca	 SUGOCA	

